

第37期(第2回)社会教育委員会議 次第

日時：令和5年2月20日(月) 14:00～

場所：神戸市総合教育センター701会議室

1. 開 会

2. 議事・報告事項

- (1) 第37期第1回議事録(要旨)の確認について
- (2) 令和4年度 各社会教育事業に関する事業報告
- (3) こうべっ子読書活動推進プログラムの検証について
- (4) その他

3. 閉 会

学ぶ・活かす・つながる
～そして、明日の神戸～



生涯学習のマスコット
「マナビィ」

第37期 神戸市社会教育委員名簿

(任期：令和4年8月27日～令和6年8月26日)

区分	氏名	役職名	任期
学校教育関係者	ソライ ズノコ 空井 淳子	神戸市立井吹の丘小学校 校長	2期目
社会教育関係者	ヨムラ ナカキ 吉村 直朗	神戸市PTA協議会 会長	2期目
	モリタ ユキ 森田 祐子	神戸市婦人団体協議会 副会長	2期目
	ツヅ ヲサミ 辻 幸志	特定非営利活動法人こうべユースネット 理事長	3期目
	サイトウ ユキ 齋藤 優子	生活協同組合コープこうべ 人事部 人材開発 兼 コープこうべ教育学習センター 担当係長	4期目
	イノウエ シンヂ 井上 真二	公益財団法人神戸YMCA 総主事	2期目
家庭教育関係者	テラタ キヨ 寺田 紀代子	兵庫地区青少年育成協議会神戸祇園支部長	2期目
	ヒラ アヤノ 人羅 亜矢子	特定非営利活動法人KOB E子育てネット 理事長	2期目
学識経験のある者	ツタ イク 津田 英二	神戸大学大学院人間発達環境学研究科 教授	1期目
	メグロ ツヨシ 目黒 強	神戸大学大学院人間発達環境学研究科 准教授	3期目

第37期(第1回)神戸市社会教育委員会議事録(要旨)

- 1 日 時 令和4年11月16日(水) 13:00~14:42
 2 場 所 神戸市総合教育センター8階 会議室806号室

- 3 出席者 (1) 社会教育委員10名
 (2) 事務局
 東課長(教育委員会事務局総務課)、
 前田課長(文化財課)、赤澤課長(スポーツ企画課)、
 小野田課長(博物館学芸課)、村井担当課長(中央図書館)他

4 議事・報告事項

(1) 第37期神戸市社会教育委員会議 議長・副議長の選出について

(事務局) 委員名簿により、委員異動について御説明。

第37期第1回会議に際し、総務部長よりご挨拶。

資料①「社会教育委員関係法令」により、議長・副議長の選出は神戸市社会教育委員会議規則第2条により、社会教育委員の互選によって行われることをご説明。

委員の皆様から推薦はあるか。

(委員) 社会教育委員として御就任されたばかりのところ大変心苦しいが、インクルーシブな社会を目指して、社会教育や生涯学習の実践的研究に長年御尽力されてこられ、松岡前議長から委員としての御推薦もあった津田委員に議長をお願いできればと思う。

また、津田委員が御就任1期目で議長となられた場合、副議長には引き続き、目黒委員に御就任いただき、議事進行を支えていただいてはどうか。

(事務局) ただいま議長に津田委員、副議長に目黒委員の推薦があったが、いかがか。

(委員) 異議なし。

(事務局) 異議がないということで、津田委員に議長を、目黒委員は副議長に御就任をお願いする。

(2) 第36期第6回議事録(要旨)の確認について

(議長) 今回より、議事録は事前にご確認いただいているものとして、異議やご質問がある場合に御発言いただく。

(委員) 特になし。

(議長) では、次の議題「令和4年度 近畿地区社会教育研究大会(奈良大会)参加報告」に移る。研究大会参加委員より御報告いただく。

(3) 令和4年度 近畿地区社会教育研究大会(奈良大会)参加報告

(委員) 資料3により、9月2日に奈良県にて開催された「令和4年近畿地区社会教育研究大会」について報告。

文教大学の金藤先生による講演があり、その後分科会があった。分科会は、地域づくりの「前例・手本・答えのない時代の地域運営」という会に参加した。

講演「社会教育には今、何が期待されているのか」では、社会教育法に基づいて設置された社会教育委員会議は、地域によって様々な形態で行われているが、人口が減少している現在、人づくり・繋がりづくり・地域づくりの3つを機能させることが、社会教育に望まれているのではないか、という話があった。貧困による子供たちの体験不足・学習機会の損失、そしていじめ等の問題を、個々の家庭の問題とせず、地域の課題としてカバーするような仕組みをつくっていくことが望ましく、学校だけに留まらず、より幅広く、地域と連携していくべきであるということだった。

地域では、子育てや防災、高齢者等、それぞれの課題において楕円が円環して皆が連携するような図式があり、全体で考えると、結局は1つの円になるのではないか、ということだ。

分科会では久美浜町（京都）の事例が挙げられ、社会教育の側面から、人口減少という課題をいかに食い止められるかという取組の発表があった。まず、子供の頃からまちの運営に興味・愛着を持ってもらうために、一般的に18歳以上に付与される投票権を、久美浜町では何かの決定の際には小学生にも付与し、全住民を巻き込んで1票を投じられるようにした。また、子供もアンケートで直接まちの大人に意見を言える場をつくった。これは地域創生の分野の話に思うが、地域の文化・人・風習といったものを住民に認知させ、それを洗い直して雇用を創出する、そして田舎の交通整備をしていく、また、空いている施設や家が多くあるため、これを利用して交流の場を設置し、1回は外に出た子供たちもUターン就職したり、Iターン移住したりするということを目指していた。

都市部以外では、地縁団体の役員がそのまま〇〇地区代表という形で社会教育委員を経験していることも多く、自治組織の地縁団体の会議イコール社会教育という側面もありつつ取り組んでいるような印象を受けた。地域の特色上、そのまま神戸市に取り入れるのは難しい部分はあるが、神戸市にとっても人口減少は課題の1つであり、学生は多いが社会人になると他都市へ出てしまうという話をよく聞くため、地元愛を強くしていくことで、何らかの形で地域に帰るきっかけができればいいのかなと感じた。また、公民館や社会教育団体と、社会教育委員が今持っているテーマ、周囲の関心を軸としたコミュニティをメインとして、興味・関心を軸とした地域づくりがあって、それに土地の距離的な近さの従来の地縁のコミュニティがあり、この双方が網目のように掛け合わさっていくと、神戸という大きなまちが網羅できるのではないだろうかとも考える。神戸市も公民館、保育所、幼稚園等今後統合されて空き校舎や空き部屋が出てきたりするが、こういったものも皆で一緒に考えて、どうやって使っていくかというところで、様々な専門の部署等と地元住民と一緒に地域づくりをしていくことで、持続可能な地域経営という視点が出てくるのかなと思った。

というのも、どうしても、社会教育の部門で地域の方にお問い合わせとなると、無償・善意で行われる運営が多いように思うが、それでは継続しないという実感もあり、担い手の確保・継続のためにも、経営の指針が必要であると感じる。

また、家や学校等決められたところにしか居場所がなく、逃げ場がない子供たちは意外と多く、こうした子供たちが自分の住んでいる地域の様々な年代のあらゆる人と沢山の出会いをして、新しい興味や価値観を育み、将来の自分を楽しみにできるようにすることが、社会教育の役割なのかなと考えた。

(議長) 今お話いただいたことについて、感じたこと等があれば御発言いただきたい。

(委員) 今のユース世代の学生と話していると、ラジオ体操がなかったとかお祭りがなかったとか、そういう意味での世代間ギャップというのが相当あると実感する。それなのに、団塊の世代の方々と、全然人生の軸が違うユース世代に、同じように「コミュニティ」や「地域」という言葉を、共通化された言語のように使ってしまう。そのあたりは久美浜町では意識的に変えようとしている様子であったか。

(委員) 小さな町では、むしろ大人世代が子供たちに、大人になったら他都市に出て働くよう勧めることもあるという。それだと本当に町がなくなってしまうため、親世代が子供たちに一度外に出ても戻ってきてほしいという話をしたり、子供たちが自分自身でこの町が好きだのだと発信をしてほしいということで、今までは年功序列や役員の言うことに沿ってきたような場面でも、全員一緒の1票、1つの意見ということで取り入れよう・聞いていこう、という風にし、意識を変えたという話だった。

(委員) 地域イコール拠点ではないと。

(委員) 拠点ではない。思い出等もそうだと思うし、例えば、何か地域特有のお祭り等、「地元のあれをもう一回やりたい」等があって、このときには皆絶対に帰ってくるといったようなもの。これは練習をしないといけないから、2か月に1回は田んぼや畑の手伝いもあるのだけど、若い子たちが帰ってきていて、気が付くと割と戻ってきている人が多い、となっている地域もあり、そういった「体験の共有」みたいなことかと思う。

(議長) 「地域」という言葉を安易に使ってしまうというのも、人によって「地域」の言葉の意味するところが違うという御指摘だと思う。他に御意見・御質問はあるだろうか。

(委員) 社会教育とは何を指すのか、生涯学習とは何を指すのか、というの認識が、委員それぞれで「大体こういったところ」という捉え方をしているように思う。この会議の中で共有する社会教育の本当の意義、目指すもの、その辺りを、一度きちんと共通の意識として欲しいと思う。ここは動かせないということが明確になれば、これから自分たちの所属する組織での活動にしても、そこを揺るがさないということができる。

(議長) まさに核心部分だと思う。なるべく早い時期に、そういった話ができるよう考えていきたい。

(委員) 自分の所属する組織に対し、社会教育について話をする際、確信を持って明確に伝えられることが、社会教育委員会議に参加している意味ではないかと思う。

(議長) よく分かった。どういう議題を協議すれば、それぞれがお土産として所属する組織に持って帰れるようなものになるのか、社会教育とはこういうものだという言語化ができるのか、ということについては、検討する必要がある。御自身の社会教育がどういう意味なのかということ、それぞれに語っていただくような機会があっても良いかもしれない。

(委員) その中で、共通の軸が確認できるのではないかと思う。

(議長) では、そういう方針を大事にしながら進めていきたい。他に御意見・御質問はないだろうか。それでは、次の議題「令和4年度 各社会教育事業に関する事業報告」に入らせていただく。

(4) 令和4年度 各社会教育事業に関する事業報告

(事務局) 資料4により、文化財課令和4年度上半期事業実績の報告。

文化財課直営事業としては、11月1日の「近代洋式灯台の点灯」の記念日に関連づけ、明治17年に建設された、国登録文化財の旧和田岬灯台を公開した。255名の参加者に見学していただいた。

埋蔵文化財センターでは、前回御報告の春季展、そして「速報展示」として令和3年度の発掘調査の成果展を、エントランスホールで企画・開催した。夏休み期間中の開催ということで、短期間の展示だったが、1,900名近くの御来場をいただいた。

また、毎年夏休みに開催している講座として「体験！考古学講座」というものがあり、夏休みの自由研究の成果品を提出していただいている。これは、勾玉、火起こし器、古代の鏡、土器作り、ミニチュア銅鐸、古代の編み機によりコースターの制作等を行っているもので、制作に1日かかる銅鐸作りや、1回あたり10名程しか制作できない古代の鏡づくりがある上、コロナ対策としても参加人数の制限を行っているため、人数としては、1回あたり30人前後の参加に留まっている。

連続講座「こうべ考古学」は、一般の方も対象とし、神戸市の考古学的な歴史の成果を神戸市文化財課の学芸員が発表するという場である。今年は各区の歴史について順番に発表を行っているところであり、60～70人弱程度の参加となっている。

令和4年度の入館者推移は、小学校団体の来館が戻ってきたことで4～6月は前年度を上回っている。一般の来館者も戻ってきており、夏場には猛暑による若干の落ち込みがあるものの、秋になると持ち直してきている状況。

秋の展示「元素でたどる考古学」は、これまでとは違った新しい切り口で考古資料を見ていただく趣旨で、科学的な視点を踏まえて、「ミュオンが拓く成分分析の新地平」等、最新の考古学の知見を展示の中に取り込んでいる。

小学校・中学校に赴いて実施している出張体験考古学講座では、可能な限り実物の土器・石器を持っていき、実際に触れてもらい、その質感や重みを手で実感する学びを重視している。

大学生の夏休み中の博物館実習は、今年度は六甲から12名の参加があり、埋蔵文化財センターにて模擬展示を行った。

そして、令和3年度以降、文化スポーツ局内で図書館・公民館・10月1日にオープンした西神中央ホール等の連携事業も新たに進めているところである。

垂水区との連携として、前回の会議で6月の五色塚古墳まつりを挙げたが、11月3日には大歳山遺跡祭りを行った。3年ぶりの開催ということもあり、1,000人を超える参

加

があった。500名近くの方に土器・勾玉作りに参加していただき、大変好評であった。

また、コロナ禍で文化・芸術活動が停滞していることについては、音楽活動を継続していただくため、6月にマリンバコンサートも実施した。こちらも、毎回幅広い世代の100名近い参加者があり、大変な盛況となった。

(議長) 御質問・御意見はあるか。

(委員) 特になし。

(議長) 次に、博物館及び美術館の事業報告をお願いします。

(事務局) 資料5により、令和4年度の事業報告。

博物館は年に4～5本程度の特別展を開催している。前年度からの継続で、2月5日～5月8日までは、大英博物館のミイラ展を行った。博物館は一般的に年配の方の来館が多いが、この展覧会では小・中学生、その保護者にも多く来館いただき、コロナ禍では大きな展覧会ができなかったこともあり、久しぶりの盛況となった。

7月16日～9月25日にかけては、コロナ禍以降初めての大規模な海外の美術展として、スコットランドの国立美術館展を行い、7万2,996名の方に御覧いただいた。

現在は、神戸市立博物館の開館40周年記念特別展「よみがえる川崎美術館展」を開催中で、招待状がないと見ることができない川崎美術館の展示を、御覧いただける。10月30日までの来場者は8,426人となっている。

また、1月14日から急遽、インド独立75周年・日印国交樹立70周年を記念し、「インド近代絵画の精華」という展覧会も開催することになった。現在九州のアジア美術館にて開催している、ナンダラル・ボースという国宝級の絵を描く方の作品を巡回させる。

そして、コロナ禍でこういった運営を行っているのかという前回の質問について、お答えしたい。早い段階で、国際美術館会議で大体3.14平米1人頭で会場を算出という方針が出ていたため、それに準じた形で展覧会を行ってきた。

徐々に規制緩和され、現在は大体1平米当たり1人ぐらいとなっているが、博物館はまばらに展示作品があるわけではなく、音声画像があればそこに人が集まってくるため、展示方法にも十分気をつけて運営を行っている。コロナウイルスは、博物館にとって非常に痛い打撃ではあったが、その一方で、キャッシュレス化や時間予約（時間枠制）は、コロナをきっかけとして導入できたものである。

小磯記念美術館についてもご報告する。特別館として6月11日～9月25日の90日間で「秘蔵の小磯良平」という武田薬品コレクションの展覧会を開催する。現在は、小磯良平と竹中郁との親交を物語風にし、「詩人と画家のメモワール」という展覧会を開催している。10月30日までに2,210名の来場となっており、コロナ第8波の影響が出てきているようにも思う。

神戸ゆかりの美術館では、特別展「白洲次郎・白洲正子」を開催中である。非常に好評いただいております、現在まででトータルで1万3,579人の来場者数に達している。現在、神戸の版画家である川西英の「三つの百景」という展覧会も開催している。

(議長) 御意見や御質問はあるか。

障害のある人たちの生涯学習の推進で、兵庫県と取り組んでいることについて、お話

したい。障害のある人たちにアンケート調査をしたところ、自由時間はたっぷりとあり、しかも活動をしたいと思っている方もいるのに、活動する機会がないという結果がはっきりと出た。行政で何ができるかということを考えていったときに、公共施設の責任というものがあるのではないかという話になり、公共施設で一番行きやすいのはどこかといったら、やはり博物館系だろうということで、今年度、急遽博物館に関する取組を開始した。様々な人に来館してもらうような仕掛けづくりに関心がある博物館に手を挙げてもらって、兵庫県内で7館が参加することになった。聴覚・視覚・知的・重度障害のある人たちの団体に協力をしてもらい、その博物館に実際に出かけていき、その博物館で思ったことや楽しかったこと、こうなったらいいだろうという希望等の意見を出してもらい、事務局が取りまとめ、博物館に情報を提供する、という取組である。今年度はパイロット的に進めているが、来年度は恐らく本格的に推進していくことになる見込みで、ぜひ神戸市の博物館にも御協力いただきたい。

今年度参加の7館は歴史系のところが多く、考古博物館や歴史博物館、それと自然博物館等となっている。

(事務局) 本物の展示物を触ることはなかなか難しいが、例えば触ることができるようなザビエル像を作る等できたらと考えているところである。青銅や銅鐸の本物は触れないが、現代作家が作ったものを触っていただく試み等が出来たら良い。連携事業として、盲学校等で児童生徒から意見を聞くなどの取組を始めたところである。今年度は、議長の仰る取組についても伺っていたが、来年度からの本格開始ということだったため、来年度以降、参加したいと考えている。

(議長) そのほか、何かご意見などあるか。

(委員) 特になし。

(議長) 次に、図書館の事業報告をお願いします。

(事務局) 資料6を用いて、令和4年度図書館事業報告。

秋の読書週間が今終わりかけているところで、集計等が出たら、次回の社会教育委員会にてご報告したい。

今回は、資料6の「神戸市立図書館のサービス中止のお知らせ」ということで、12月29日から1月30日までのほぼ1か月以上、図書館が停止することについて、御報告したい。停止の理由としては、今まで図書館では、独自開発のコンピューターシステムを使い続けてきたが、この度神戸市全体の流れとして、統一のパッケージシステムを導入することになり、その移行のため停止するものである。

この間、コンピューターを使うものは全て使用不可となるため、例えば自宅からインターネットで本を調べたりするなども、全てストップすることになる。利用者様には御不便をおかけすることになるため、貸出し、返却、予約、蔵書検索等ができなくなること、また、再開後には新しいサービスが可能となることなどを、広く周知していきたい。

この度導入するパッケージシステムは、全国でも導入している図書館が多く、スマートフォンに図書カードのバーコードを表示させ、紙の図書カードを忘れて来ても貸出しができたり、あるいはマイナンバーカードを持ってきていれば、本を借りることができた

りするサービスも、開始する予定である。全面的に閉館してしまうのは利用者の方に御不便をおかけするため、コンピューターとは関係のないところ、例えば新聞や雑誌、児童書を館内で見ていただくことなどは、可能な範囲で行っていきたい。

(議長) では、図書館の事業報告についての御意見・御質問はあるだろうか。

(委員) 図書館によっては、青少年が勉強をするスペースがあると思うが、この期間中はどのようになるのか。

(事務局) 中央図書館等、勉強する場所が別のところにある場合はご利用いただける。また、施設館内で勉強する場所を指定して、できるだけご利用いただけるようにするなどもしていく。文化センターで部屋の貸し出しを行っている場合、図書館で部屋を借りて勉強する場をつくれたらと考えている。

(委員) 今回、パッケージシステムを導入するということだが、学校の図書館もそれに連動するのか。

(事務局) 現段階では、連動していない。

(委員) 神戸市の学校の図書館では、まだバーコードの導入がされていない。電子化が遅れている自治体の1つのため、今回学校も併せて同じシステムを使えば効率的だし、公共の図書館とのリンクが貼れていいのではと考えたが。

(事務局) 現段階ではそのようになっていないが、そのあたりについては、検討しているところである。

(委員) ぜひ前向きに検討していただきたい。

(議長) 他にご意見等あるだろうか。

(委員) 特になし。

(議長) それでは「ICTを活用した中学校体育館の夜間開放について」、事務局から説明をお願いします。

(5) ICTを活用した中学校体育館の夜間開放 親しみやすい学校づくりに向けて

(事務局) 資料7により、事業説明。

神戸市は、従来から学校施設開放事業として、学校教育に支障がない限り、グラウンドや体育館、空き教室や市民図書室について、地域への開放を行っている。今後、コミュニティースクール構想もあり、開かれた学校づくり、親しみやすい学校づくりを進めていくにあたり、学校に多大な御協力をいただいている地域の皆様に、何かお返しをするという意味も込め、学校施設開放事業を積極的に進めていきたいと考えている。

学校施設開放事業の現状としては、小学校ではほぼ全ての学校で開放が行われているが、中学校では一部学校での実施に留まっている。中学校の場合は授業時間が長いということと、部活動があるため調整が難しいという理由もあり、夜間の体育館の開放であればできるのではないかとということで、今回、その点について取組を進めている。

現在の神戸市の施設開放の仕組みは、地域の皆様に学校施設開放運営委員会を組織していただき、自主管理という形で開放をマネジメントしていただいているものとなる。ただ、やはり地域の方の負担が非常に大きいということもあり、この度中学校体育館夜

間開放を広げていくにあたり、同様の方式を取ることは難しく、ICTを活用した無人管理として、インターネット上に施設予約管理システムを作成し、体育館の鍵の1か所を暗証番号で開錠可能なスマートロックに替える方式を取った。

インターネット上で予約が成立したら、その日その時間帯限りだけ使えるワンタイムパスコードが発行され、それが体育館の鍵の番号になる。利用者は学校に行き、体育館の鍵を開けて活動し、後片づけをして帰っていただく。

校門の鍵はダイヤル式の南京錠に替え、その番号も、予約が成立したら通知する形になっており、現場は全くの無人管理で開放を進めるという仕組みである。無人管理になるにあたり、校舎のセキュリティーを考える必要があるが、校舎を通らずに体育館にアクセスできる、校舎と体育館が分離している、あるいはクローズシャッターで簡単に遮断できる学校から導入しており、そうした条件の整っている学校が、神戸市の全中学校80校の内、60校弱程度ある状況。

11月からは16校で利用開始しており、日々利用登録の団体が増えている。現在143団体の登録があるが、11月の利用だけで290近い予約が既に入っている。こうした状況を見ると、神戸市内に活動場所を探している、困っている団体がこれだけあるのだという実態に改めて驚いている。今後、12月からは25校に拡大し、令和4年度中に40～50校程度まで拡大したいと考えている。

導入当初、無人管理ということで、学校現場からは学校教育に支障が出る状況にならないかや、学校の施設管理上困ったことにならないかといった懸念の声があったが、スタートして半月が経ち、既に100件以上のご利用があった中で、大きなトラブルや懸念されていたようなことは起きていないため、このまま継続することに問題はないと判断している。

親しみやすい学校づくり、「人がつながりともに創るみんなの学校」という、神戸が目指すこれからの学校の姿を実現する一つ的手段として、このICTを活用した学校施設開放を、積極的に進めていきたいと考えている。

(議長) それでは、このシステムについて御意見・御質問はあるだろうか。

(委員) 学校施設開放は、私自身が責任者で8年ほどやったことがある。同じ場所で継続して運営していると、どうしても偏った運営になったり、忖度が生まれたり、様々なことがあった。今、新たな開放事業についての説明を聞いて、これは素晴らしいと感じた。実際にこうしたやり方が上手くいくのであれば、非常に良いことだ。実際、中学校には体育館があるのだが、稼働率が低く、市民は利用できる体育館がなくて困っている。東灘も体育館をほとんど持っておらず、活動場所を探しているため、学校施設を皆で有効活用できるというのは、本当に有難いことだと思う。是非進めていって欲しい取組である。

(議長) これまでの運営委員会方式では、利用者が競合したときに、どちらが活動できるのかという局面で、忖度や既得権のようになってしまっていたと思うが。

(委員) やはり様々なクラブがある中で、運営委員会の人と繋がりのあるところが主に使える団体になってしまうなど、なかなか本当の意味での『公平』な利用に至るには、難しい実態がある。また、施設開放を運営委員会に任せていると、学校もどうしてもそこに気を

遣いながら学校運営をせざるを得ないような部分も出てくるため、平等性を保つためには、こういった方法は非常にスマートで良いと思う。

(事務局) 運営委員会方式では、地域の方に管理をお任せしているため、新規の利用団体が増えれば増えるほど、地域の負担が増えるという状況もある。そのため、管理する側も新しい団体が利用したいと言ってきても、管理が大変でお断りせざるを得ないという実態もあり、現在地域の皆様に大変ご協力をいただいているが、制度的な限界もあると感じる。

(副議長) 利用者の方は保険は何かに入る必要があるのか。例えば、体育館で何かを壊してしまった場合はどうなるのか。

(事務局) 教育委員会として指定の保険に入っただけ等はないが、利用団体は各々で保険に加入している場合が多い。

(副議長) 任意ということか。

(事務局) そのようになる。

(委員) 他の委員が言われたように、このシステムはとても素晴らしく、構築にあたり、様々な努力をされていると思う。

子供たちの体力・運動能力の向上や、既存団体の既得権といった問題でない、全く違う観点で言うと、新しい利用者、要するに、今こういう施設を使っていない若年層の利用が増えるきっかけづくりになる試みが本当にできるのか等が気になる。

それともう一点、学校現場で必要な施設を無料で使用するということの、市民サービスの重要性と、その施設を維持していくための財源の確保といった観点は、同一には語れない。我々社会教育委員の取り扱う課題というのは、既に言われているが、こういったところなのかなと感じた。

(議長) 大変興味深い試みで、いろいろと考えられるところだと思う。他にいかがだろうか。

(委員) このシステムは、施設管理上課題のある中学校や小学校でなくとも、導入した方が良い。先ほど話があったように、既得権で「ずっと自分たちの団体が使っているのだから、これからも自分たちがここを使うのだ」といった雰囲気になっている開放も実際にあり、例えば新たなクラブを立ち上げて活動したいのだけど、あの団体が使っているから難しいな、となってしまう。シンプルに抽選で申し込みできるのなら、非常にやりやすくなると思う。

(事務局) 現状、課題も様々あるため、そのあたりを含めてどういった学校施設開放の在り方が望ましいのかということについて、今後本格的に議論していきたい。この社会教育委員会会議の場でも、いろいろと御意見をいただきたい。

(委員) 学校現場の側から見ても、様々な課題はあるのだと思う。先ほど話があったように、物が壊されていたときにどうするかといったようなところも含めて、これから整理されていく段階だと思う。今後この場でも、一緒に考えていきたい。

(委員) 先ほどから聞いていて非常に気になっている点は、各施設の主な利用者はどういった人で、どのように利用しているのかということ。例えば、幼・小・中・高校の児童生徒が、どういう形で各施設を利用しているのか、そして、校舎である体育館を利用することの目的は、子供の体力向上なのか、それとも単純に地域の活性化や交流なのか。学校施設開放が「ただ遊びたいから使う場所」になってしまうと、最終的に施設の破損

や飲酒喫煙等最悪のトラブルも想定され、懸念事項になってしまう。新たな方式を導入したことによって、何を指すかというところが、重要である。

市民の健康増進と体力、運動能力向上を目指すということだが、実際にどのぐらいの割合で、どういう人たちが現状使っているのかというところを、データで把握できると、より活用できるのではないか。やはり、施設を使いたくてもどこも埋まってしまっていて、予約が可能などところも月初めに早いもの勝ちで全部決まってしまうため、ちびっ子たちを連れて何か場所を借りたいと思っても、難しいような状況が非常に多くある。

それで、誰がそうした施設を利用しているのかと見てみると、同じような人たちで全部埋まっていて、結局、今月は1回も活動できなかった…と。先ほどから話が出ている付度ではないが、このように、どうしても利用者の偏りというものはある。

今回の取組は、折角良いシステムなので、どうやって皆に広く周知していくかということも大事である。

(事務局) 現状、登録団体は子供のスポーツ団体や大人だけのスポーツ団体等、混在しており、多種多様な団体に利用していただいている。単に遊ぶために体育館を使うことは問題ではないかという点については、現状、基本的に個人利用は認めていない。しっかりとした活動目的、活動団体の構成、現在の活動状況があるかを、利用登録申請に記入していただき、健康増進・子供たちの体力の能力向上、生涯学習・交流の場といった学校施設開放の趣旨に沿っているかどうかを、こちらで審査している。

(委員) 体育館で実施可能なスポーツとなると、ある程度限られると思うが、ボールなどの道具は利用者の持ち込みとなるのか。

(事務局) 基本的にボール等については持ち込んでいただいている。ただ、例えばバレーボールの支柱等を持参することは困難なため、可能な限りではあるが、学校の備品の貸出しを行っている。

(委員) 今回こうして話し合ってみて、社会教育委員として皆さんが実践した内容をそれぞれお伺いする機会が欲しいと考えた。こうした場で意見を交換し、様々な事業について学べる機会を得ているため、それを自分の所属する集団へ持ち帰り活かすことが役割だと考えている。そのため、他の様々な団体が実際に活動していることというのを、ぜひ次回以降共有し合いたい。例えば今回のお話で、こんな取組を体育館でやっているから、自分の所属団体と、他の委員の所属団体とでコラボをしましたといったこと等に繋げていけるような機会に、これからしていきたいと感じている。

(議長) このシステムについては、今後も報告があるということなので、またの機会に協議とし、本日はここまでとしたい。次回以降もどうぞよろしくお願ひしたい。

(事務局) 次回の社会教育委員会議は、2月頃に開催予定とし、後日改めて日程調整をさせていただきます。

令和4年度事業実績

文化財課

神戸市埋蔵文化財センターの事業報告（12月末現在）

○春季企画展「神戸でいちばん！ーくらべてみよう、遺構や遺物ー」

神戸市で発掘された資料の中から、大きいものや古いものなど、遺物と遺構に関する様々なジャンルの「いちばん」を取り上げ、それぞれの考古資料がもつ意味について考えていく展覧会。

会期 4月16日（土）～6月26日（日）（開館日数64日）

入館者数：6074人

展示解説 4月24日（日）25人、5月21日（土）11人

バックヤードツアー 5月8日（日）11人、5月28日（土）16人

○速報展「こうべ発掘最前線～令和3年度の調査から～」

昨年度発掘調査した中から注目される成果を紹介。エントランスホールに展示ケースを設置したミニ展示。

会期 7月23日（土）～8月28日（日）（開館日数31日）

入館者数：1887人

○秋季企画展「元素でたどる考古学」

遺跡からの出土品は、含まれる「元素」の種類によって色々な性質があり、それを調べることで年代や材質、産地を知る手がかりも得られる。「元素」を切り口に、一味違った視点で考古資料を紹介する展覧会。

会期 9月23日（金）～11月27日（日）（開館日数55日）

入館者数：4728人

記念講演会

10月23日（日）「弥生時代～古墳時代の赤色顔料」

講師：九州国立博物館 志賀智史氏 63人

11月6日（日）「ミュオンが拓く成分分析の新地平」

講師：京都橘大学 南健太郎氏 46人

ワークショップ

10月29日（土）体感！考古学ラボ 13人

11月13日（日）五寸釘でペーパーナイフをつくろう！ 24人

展示解説 10月2日（日）10人、11月5日（土）25人

バックヤードツアー 10月16日（日）17人、11月19日（土）22人

○入館者数推移

4月	4346人	(令和3年度)	2758人
5月	3197人	(令和3年度)	1217人
6月	1696人	(令和3年度)	1378人
7月	1447人	(令和3年度)	1851人
8月	1262人	(令和3年度)	1600人
9月	1327人	(令和3年度)	1717人
10月	1878人	(令和3年度)	1986人
11月	2316人	(令和3年度)	2400人
12月	1051人	(令和3年度)	839人

○体験！考古学講座

7月16日(土)	勾玉をつくろう(1)	102人
7月24日(日)	火おこし器をつくろう	56人
7月30日(土)	古代の鏡をつくろう	56人
8月6日(土)	土器をつくろう	62人
8月11日(木)	銅鐸をつくろう	40人
8月20日(土)	古代の編み機をつくってコースターをつくろう	14人
8月27日(土)	勾玉をつくろう(2)	38人
9月10日(土)	古代の染物をしよう	23人
11月12日(土)	茅葺職人さんと竪穴住居を建てよう	41人

○連続講座「こうべ考古学」

7月23日(土)	第1回「こうべ発掘最前線～令和3年度の調査から～」	60人
9月23日(金)	第2回「発掘された東灘区の歴史」	69人
10月22日(土)	第3回「発掘された灘区の歴史」	62人
11月26日(土)	第4回「発掘された中央・兵庫区の歴史」	64人
12月24日(土)	第5回「発掘された北区の歴史」	62人

○学校団体見学

幼保6園336人、小学校25校1, 336人、中学校2校24人、
大学4校66人

○一般団体見学

24団体500人

○出張体験考古学講座・出張授業 26校

○博物館実習

8月2日(火)・3日(水)・4日(木)・8日(月)・9日(火)・30日(火)

6校12人

8月9日(火)～28日(日) 模擬展示開催『埋文食器棚』・『瓦屋根の世界』

○トライやるウィーク

11月7日(月)～11日(金) 12校23人

○連携事業

6月18日(土) 五色塚古墳まつり(共催:垂水区役所) 1,100人

7月1日(金) 講演「発掘された灘の酒蔵」(共催:東灘区文化センター) 31人

7月20日(水)～8月21日(日)「スタンプラリーお宝大ぼうけん6」

(共催:西図書館)

7月28日(木) 葺合公民館「宿題バッチリ!親子勾玉教室」32人

7月31日(日) 北須磨文化センター「夏休み銅鐸づくり」4人

10月15日(土) 中央図書館講演会

「元素でたどる考古学ー古代を探る科学の目ー」32人

10月1日(土)～ 西神中央ホール アートウォール展示

11月2日(水)～3(木) 道場町文化祭郷土歴史展『道場町の遺跡より』

800人

11月3日(木) おおとし山まつり2022(共催:垂水区役所) 1,150人

11月5日(土)～6日(日) アケボノゾウ出張展示(まちづくりスポット神戸)

11月13日(日)～12月2日(金) 神戸学院大学有瀬図書館ギャラリー展

「平安京に出陣した東播磨の焼き物たち」1,300人

11月20日(日) こども本の森 土器づくり教室 16人

11月25日(金) コミスタこうべ「遺跡から学ぶ神戸の歴史」48人

12月3日(土) 葺合公民館 勾玉づくり 39人

○関連事業

6月12日(日) マリンバコンサート 90人

12月18日(日) マリンバクリスマスコンサート 130人

令和4年度 冬季企画展

神戸・うついかわる町とくらし3

～昭和ノスタルジー～



加納町交差点付近 (昭和13年)



市電平野停留所付近 (昭和40年頃)



垂水商店街 (昭和27年)



大安亭市場 (昭和48年)
3点とも 提供: 神戸アーカイブ写真館

2023年 1月14日(土)～3月5日(日)

神戸市埋蔵文化財センター

〒651-2273 神戸市西区糺台6丁目1 西神中央公園内

神戸・うつりかわる町と暮らし3 ～昭和ノスタルジー～

人々の記憶に残る歴史の時代「昭和」。60年あまりの間に世界が巻き込まれた戦争が起こり、その後、日本は戦災復興を経てかつてないほどの高度経済成長を迎えます。これに伴い町の風景やそこに暮らす人々の生活様式は目まぐるしく変化を遂げていきました。

近年の「昭和レトロ」ブームは、こういった昭和時代の中、わけても昭和30～40年代の「ちょっと昔」が脚光を浴びたもので、その頃を力強く生きた人々には懐かしく、現代の利便性に富んだ生活に慣れた若い人々には、当時の生活の知恵や工夫がむしろ新鮮で、未知の魅力に満ちたものとして人気を博した結果といえます。

“ちょっとむかしのなつかしい”「昭和の神戸」と「昭和の暮らし」の世界へ、ぜひお越しください。



昭和30年代の台所風景（再現ジオラマ）

昭和の外あそび

1月14日(土) 10:00～/15:00～
竹馬、コマ回し、羽根つきなど、
昭和のお正月の外遊びを体験しよう！
【参加自由】

神戸空襲の体験を語る会

2月26日(日) 11:00～12:00
【申込不要 定員80名】 14:00～15:00
戦争中の体験を今に伝えます。
語り手 神戸空襲を記録する会 小城 智子 氏
西阪 順三 氏

埋蔵文化財センターに 紙芝居一座がやってきた！

2月19日(日)
11:00～・14:00～（各回40分）
地元で大人気の紙芝居の一座の公演です。
おたのしみに！

出演：ボンジュール紙芝居



ご利用案内

入館料：無料
開館時間：10:00～17:00(入館16:30まで)
会期中の休館日：毎週月曜日と2月24日

交通のご案内

地下鉄：三宮駅から西神中央駅まで約30分
バス：明石駅から西神中央駅まで約35分
■各線西神中央駅から徒歩8分
■駐車場はありません

神戸市埋蔵文化財センター

〒651-2273 神戸市西区糶台6丁目1 西神中央公園内
TEL:078-992-0656 FAX:078-992-5201

神戸まいぶん 検索



右列上から 市電模型(神戸市交通局)・買い物かご・レジスター(当館)・軽量秤・手動洗濯機(個人)



市営地下鉄に乗って埋蔵文化財センターに行こう！！
「地下鉄1日乗車券」発売中！
詳しくは [沿線NAVI](#) で検索 <http://ktbsp.jp/>

問い合わせ先

市総合コールセンター TEL:078-333-3330 FAX:078-333-3314
ナビダイヤル:0570-083-330

令和4年度の特別展

博物館

展覧会名	会期	入館者数
特別展 大英博物館ミイラ展 古代エジプト 6つの物語	令和4年(2022)2月5日(土) ～5月8日(日)【81日間】	136,234人(1,682人/日)
特別展 スコットランド国立美術館 THE GREATS 美の巨匠たち	令和4年(2022)7月16日(土) ～9月25日(日)【62日間】	72,996人(1,177人/日)
神戸市立博物館開館40周年記念特別展 よみがえる川崎美術館展 一川崎正蔵が守り伝えた美への招待一	令和4年(2022)10月15日(土) ～12月4日(日)【44日間】	50,862人(1,155人/日)
インド独立75周年・日印国交樹立70周年 インド近代絵画の精華ーナンダラル・ボースと ウペンドラ・マハラティ	令和5年(2023)1月14日(土) ～3月21日(火・祝)【57日間】	・1月29日(日)までの入館者 2,011人(143人/日) ・想定入館者数 12,600人(221人/日)

小磯記念美術館

展覧会名	会期	入館者数
特別展 秘蔵の小磯良平 ー武田薬品コレクションから	令和4年(2022)年6月11日(土) ～9月25日(日)【92日間】	11,632人(126人/日)
開館30周年記念特別展 竹中郁と小磯良平 ー詩人と画家のメモワールー	令和4年(2022)年10月8日(土) ～12月18日(日)【62日間】	7,584人(122人/日)

神戸ゆかりの美術館

展覧会名	会期	入館者数
特別展 白洲次郎・白洲正子 武相荘 折々のくらし	令和4年(2022)7月16日(土) ～9月25日(日)【62日間】	13,579人(219人/日)
特別展 川西 英～三つの百景	令和4年(2022)10月15日(土) ～12月25日(日)【62日間】	7,079人(114人/日)
第9回 日展 神戸展	令和5年(2023)2月18日(土) ～3月26日(日)【32日間】	想定入館者数 37,360人(1,168人/日)

The Pearls of Modern Indian Painting :
Nandalal Bose and Upendra Maharathi

インド 近代絵画の精華

— ナンダラル・ボースとウペンドラ・マハラティ

インド独立75周年
日印国交樹立70周年



2023 **1.14** (土) - **3.21** (火)

神戸市立博物館
KOBECITY MUSEUM

〒650-0034 神戸市中央区京町24番地
Tel.078-391-0035
<https://www.kobecitymuseum.jp/>

休館日 | 月曜日
開館時間 | 9時30分～17時30分 ※入館は閉館の30分前まで
主催 | 神戸市立博物館、在大阪・神戸インド総領事館、神戸新聞社
特別協賛 | ニューデリー国立近代美術館
観覧料 | 一般300(240)円 大学生150(120)円 高校生以下無料

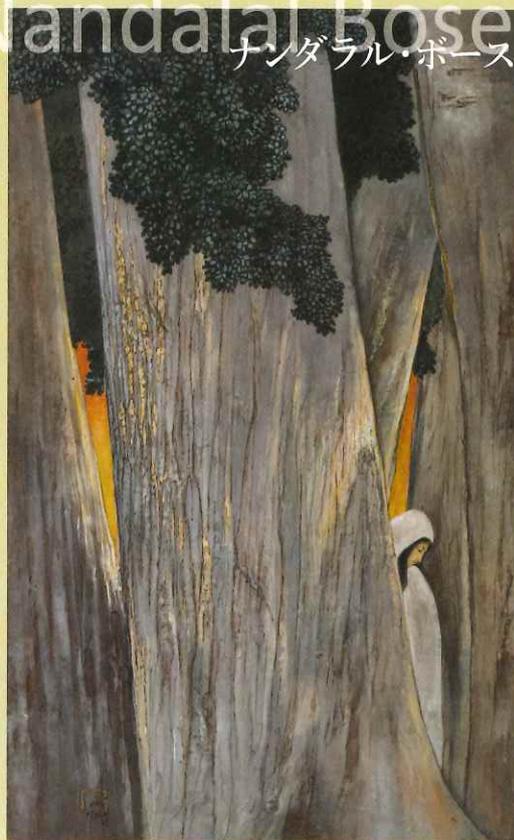
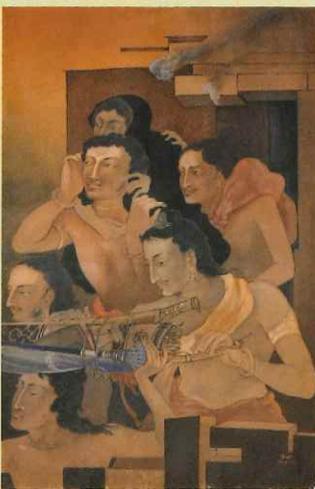
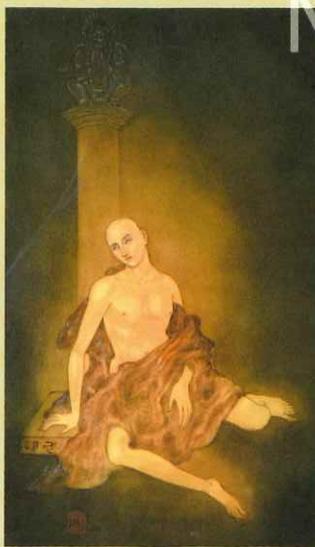
※()内は30名以上の団体料金
※本展観覧には、上記コレクション展の観覧料が必要です。



日本とインドの国交樹立から70年の節目を記念して、ニューデリー国立近代美術館のコレクションによる、インド近代絵画の展覧会を開催いたします。このたび紹介するのは、インドの近代美術を代表する画家、ナンダラル・ボース(1883-1966)とウペンドラ・マハラティ(1908-1981)の作品です。

ボースはアバニンドラナート・タゴール(1871-1951)をはじめとするベンガル派の画家から大きな影響を受けたことで知られています。ベンガル派は、20世紀初頭、岡倉天心や横山大観、菱田春草といった日本近代美術の重要人物たちとも交流し、西洋画ではなく伝統的な絵画技法を重要視しました。一方マハラティは、ボースの次世代として活躍し、インド近代絵画を牽引した重要な画家のひとりです。1950年代に2年間日本に滞在しており、留学を契機として仏教的な主題を多く手掛けるようになりました。

本展では、ふたりの画業の一端をニューデリー国立近代美術館・パトナー美術館の所蔵作品25点から紹介します。日本画壇の作家たちとの運命的な出会いから生まれたインド近代絵画の精華をご覧ください。



ウペンドラ・マハラティ

インドと日本、

運命の絵に出会う



	2	1
	3	
6	5	4

1. ナンダラル・ボース《たそがれ》1941年/テンペラ・紙/ニューデリー国立近代美術館
2. ナンダラル・ボース《ガルダ神柱よりかかるチャイナヤ師》1910-15年頃/1947年/水彩・テンペラ・紙/ニューデリー国立近代美術館
3. ナンダラル・ボース《火室(漆喰屋敷炎上)》1910-11年頃/1943年/ウォッシュ・テンペラ・紙/ニューデリー国立近代美術館
4. ウペンドラ・マハラティ《サティの遺体を抱いて世界を蹂躞するシヴァ》制作年不詳/テンペラ・紙/ニューデリー国立近代美術館
5. ウペンドラ・マハラティ《アルダナーリシュヴァラ(シヴァとパールヴァティ)》1938年頃/ウォッシュ・紙/ニューデリー国立近代美術館
6. ウペンドラ・マハラティ《水瓶を抱える村娘》1965年/水彩・紙/ニューデリー国立近代美術館



交通案内

●JR「三ノ宮」駅、阪急・阪神「神戸三宮」駅、神戸市営地下鉄(西神・山手線)、ポートライナー「三宮」駅から南西へ徒歩約10分 ●JR・阪神「元町」駅から南東へ徒歩約10分 ●神戸市営地下鉄(海岸線)「旧居留地・大丸前」から南東へ徒歩約8分 ●新幹線「新神戸駅」から神戸市営地下鉄(西神・山手線)に乗り換え、「三宮」駅下車 ●神戸空港からポートライナーで「三宮」駅下車 ※博物館には駐車場がありません。お近くの有料駐車場をご利用ください。

新型コロナウイルス感染症拡大防止にご協力をお願いいたします。
 [次に該当する方は、入場をご遠慮ください。]
 ・発熱のある方・咳、咽頭痛などの症状のある方
 [館内では、以下にご協力ください]
 ・検温・マスクの着用・手指の消毒
 ・他のお客様との距離を保ち、会話は必要最低限に

第9回 日展

神戸展

2023年
2月18日(土) → 3月26日(日)

月曜日休館 *ただし、臨時で休館となる場合があります。

午前10時～午後5時 (入館は午後4時30分まで)

神戸ゆかりの美術館 **K** 神戸ファッション美術館
KOBÉ ARTISTS MUSEUM KOBÉ FASHION MUSEUM

日本最大級の総合美術展、日本美術展覧会「日展」が、今年神戸の芸術都市一六甲アイランドで開催されます。「日展」が神戸にやってくるのは、じつに54年ぶりのことです。

「日展」は、明治40年(1907)に開催された第1回文展(文部省美術展覧会)にはじまり、帝展(帝国美術院美術展覧会)を経て、戦後、日本美術展覧会となった長い伝統を誇る日本最大の総合美術展です。現在、日本画・洋画・彫刻・工芸美術・書の5つの部門からなり、例年秋に開催される東京展を皮切りに、国内主要都市で巡回展が開催されています。

「日展」神戸展では、全国を巡回する基本作品と、兵庫、大阪、奈良、和歌山一地元作家の入選作品、総数約540点を一堂に展覧いたします。今年神戸で「日展」です!

■入館料 / 一般1,200円(1,000円)、大学生600円(500円)、65歳以上600円(500円)

※カッコ内は20名以上の団体料金。

- 高校生以下無料(学生証、生徒手帳などをご提示ください)
- 65歳以上の方は、年齢が証明できるものをご提示ください
- 障がい者手帳またはスマートフォンアプリ「ミライロID」などのご提示で無料

■問合せ / 神戸ゆかりの美術館

〒658-0032 神戸市東灘区向洋町中2丁目9-1

TEL: 078-858-1520

FAX: 078-858-1522

ホームページ: <https://www.city.kobe.lg.jp/yukarimuseum/>

■主催 / 神戸市、公益社団法人 日展、神戸新聞社

■後援 / サンテレビジョン、ラジオ関西、神戸市民文化振興財団

日展作家の作品プレゼント!

ご来館頂いた方へ応募用紙をお渡しします。会場内の応募箱へ入れてください。抽選後、当選者へ発送します。

日展にあわせて様々な催しを開催! 詳しくはこちら▶



新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、変更が生じる場合がございます。最新の情報は、ホームページでご確認ください。



れいめい
日本画「黎明」村居正之(理事)



いざなぎのみこと
洋画「伊邪那岐命の悲しみ」
小灘一紀(理事)



彫刻「秋に想う」岩谷誠久(特選)



書「寒き夕べ」黒田賢一(副理事長)



はとう
工芸美術「波濤」田中紀子(会員)

(兵庫・大阪・奈良・和歌山)

○印は新入選者

日本画

Table of Japanese painting artists including names like 青木秀明, 青野賢蔵, 熱田圭守, etc.

洋画

Table of Western painting artists including names like 阿部浩子, 井野富美, 稲森雅博, etc.

Table of artists from Hyogo, Osaka, Nara, and Wakayama, including names like 本松年男, 松木美子, etc.

彫刻

Table of sculptors including names like 安達上裕, 伊賀上裕, etc.

工芸芸術

Table of craft and art artists including names like 安芸和生, 生田美和, etc.

書

Table of calligraphers including names like 青木理子, 白石明美, etc.

Table of artists from Hyogo, Osaka, Nara, and Wakayama, including names like 阿部阿部, 阿部阿部, etc.

Table of artists from Hyogo, Osaka, Nara, and Wakayama, including names like 小林明香, 小林明香, etc.

Table of artists from Hyogo, Osaka, Nara, and Wakayama, including names like 和田岳小, 和田岳小, etc.

日展出品作家による作品解説日時(各部門別)

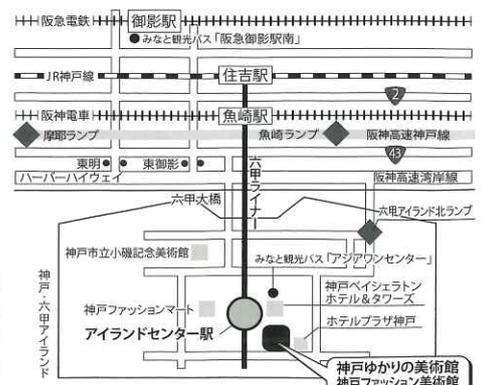
Table of exhibition dates and times for various departments, including dates like 2月21日, 2月22日, etc.

◆本展および関連イベントは、今後の諸事情により変更する場合があります。最新の情報は美術館公式HPでご確認ください。

◆交通案内:

電車 JR「住吉駅」、阪神「魚崎駅」乗り換え、六甲ライナー「アイランドセンター駅」下車南東すぐ...

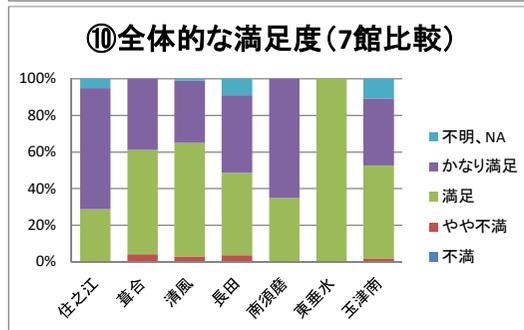
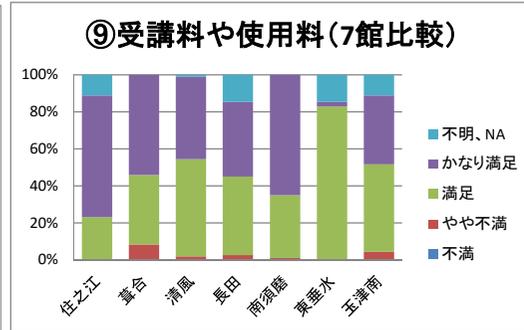
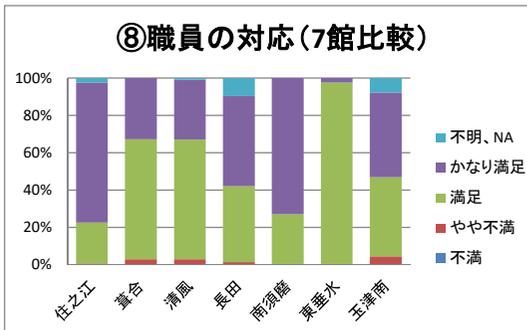
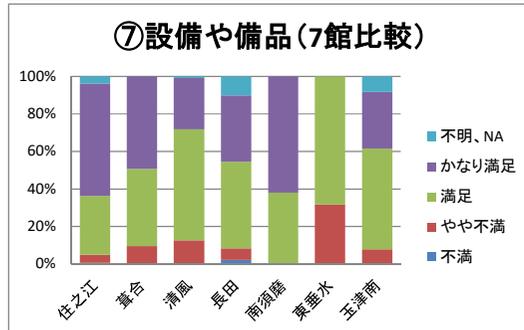
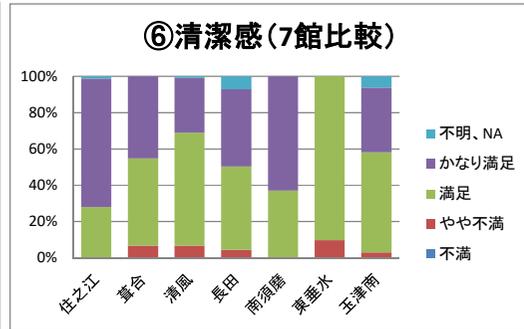
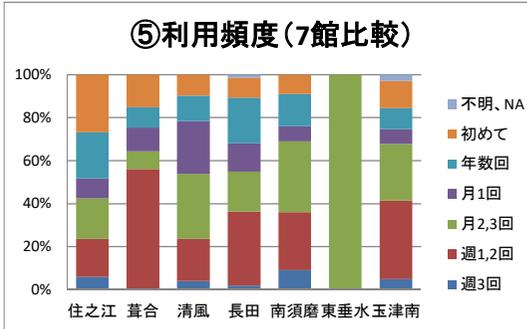
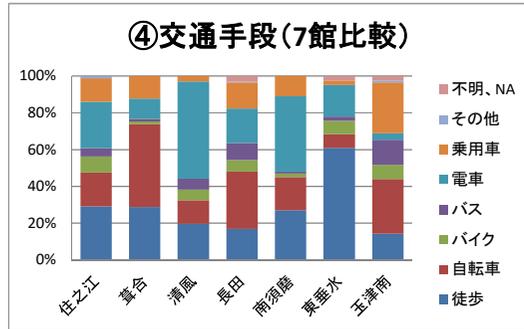
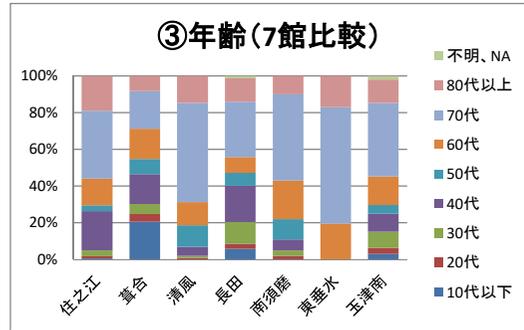
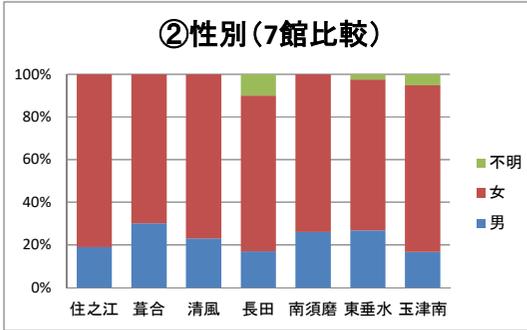
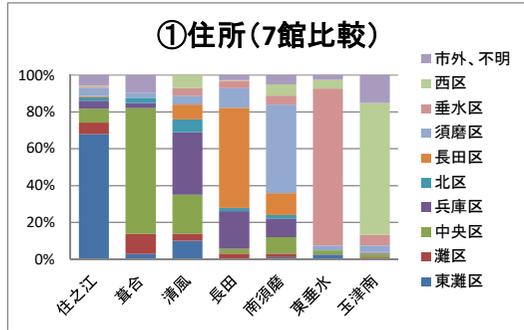
神戸ゆかりの美術館 〒658-0032 神戸市東灘区向洋町中2丁目9-1 TEL: 078-858-1520 FAX: 078-858-1522



定員: 各50名(先着順) 場所: 4階第1セミナー室

※参加費無料。ただし、当日の観覧券が必要です。

令和4年度 公民館アンケート集計結果①



アンケート集計結果と分析 回答数：904

①全体的な傾向は昨年度とは変わらない。神戸市の中央寄りに位置する清風・長田・南須磨は他区からの利用が多い。

②女性の利用が多い傾向は変わらないが、男性利用者の割合が増加している公民館が多い。

③高齢者の利用が多い。どの館も70代の利用者が一番多い。

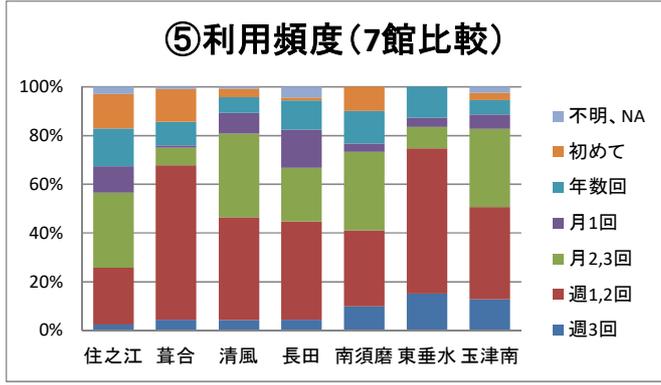
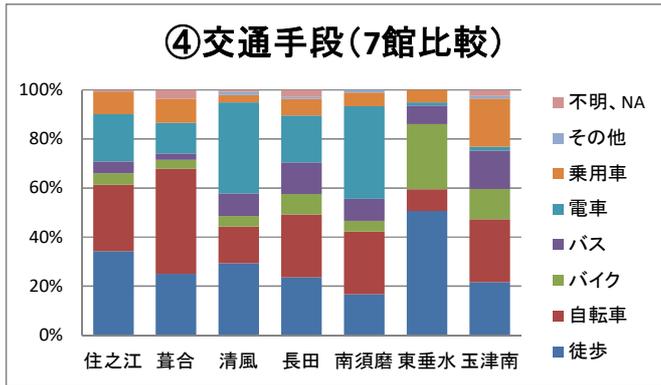
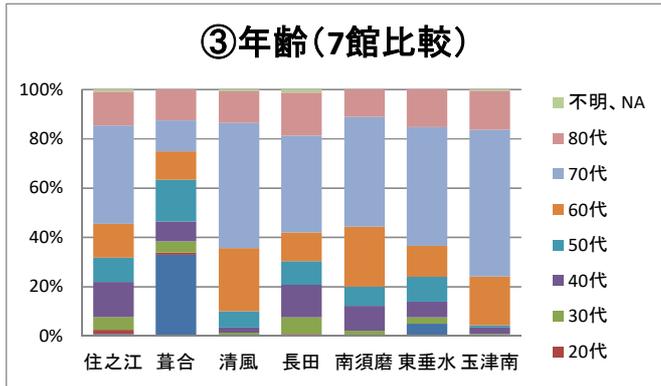
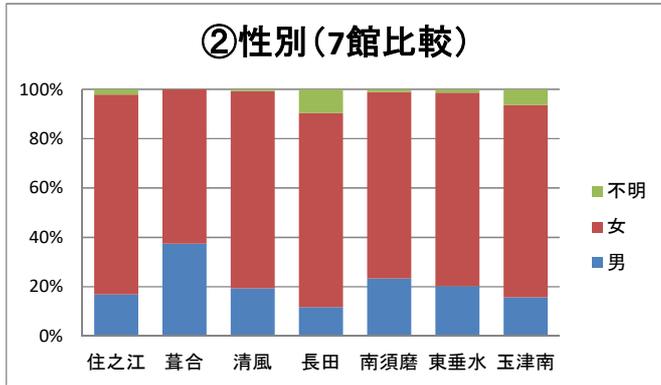
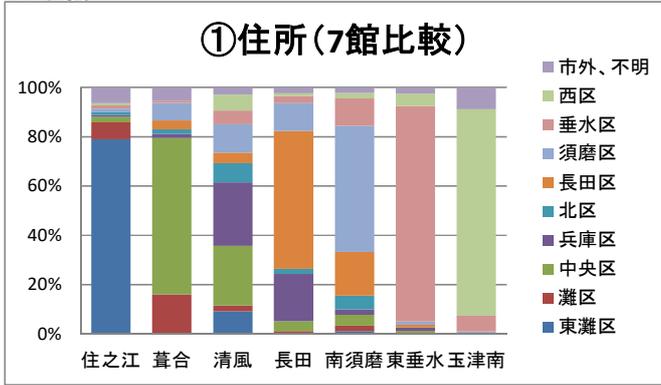
④立地条件により、電車・バスの利用が容易である住之江・清風・長田・南須磨、自転車の利用が多い葺合、徒歩の利用者が多い東垂水と傾向が顕著である。乗用車で利用する人も増えている。

⑤概ね、初めての利用者の割合よりもリピーターが多い傾向にあるが、初めての利用者も増加している。どの館も月1回以上利用する方が5割以上を占めている。東垂水は、講座・講演会でのアンケートのみ取得しているため偏りがある。

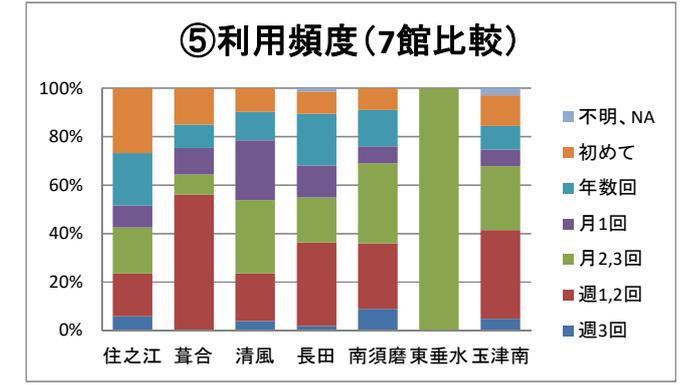
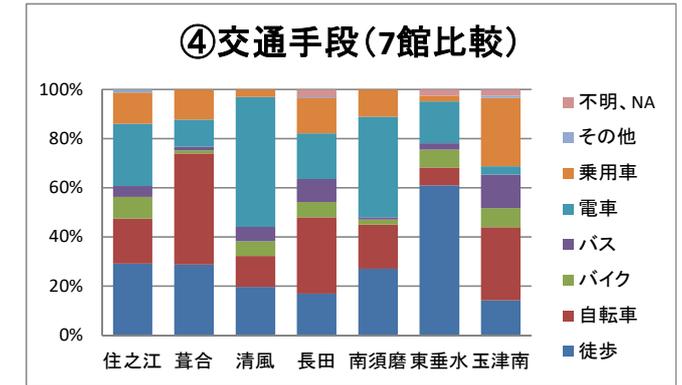
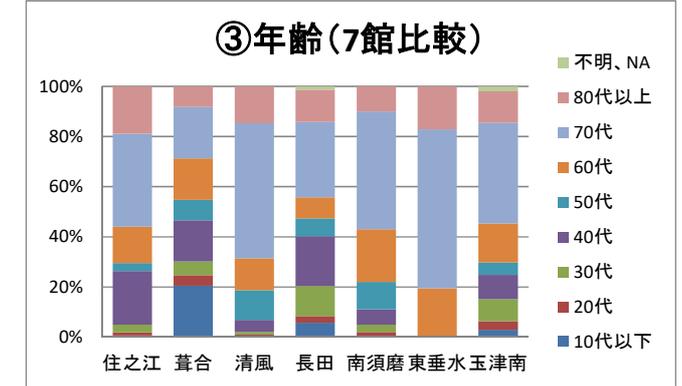
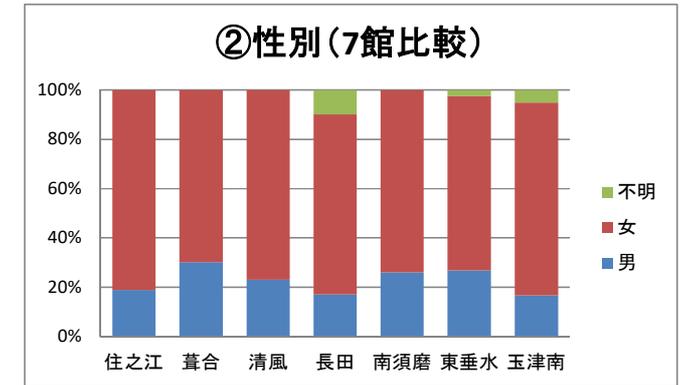
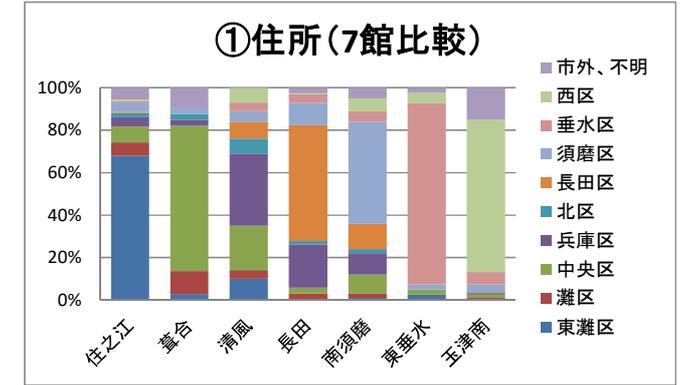
⑥～⑩は、7公民館とも同様の傾向が見られるが、概ね利用に満足していると分析できる。

⑦設備や備品について、不満をもたれている割合がやや高い。

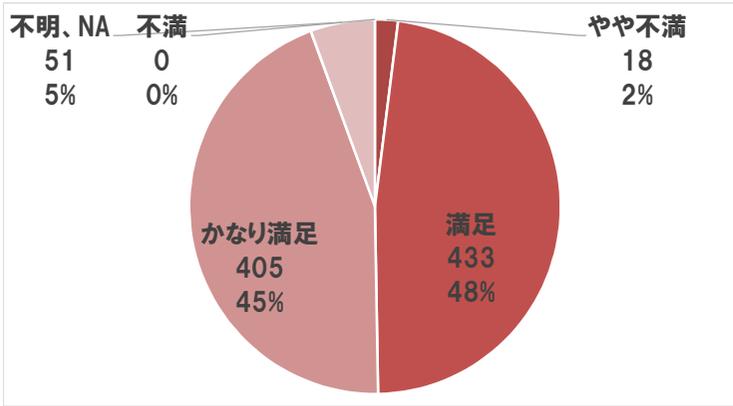
03年度



04年度



令和4年度 公民館アンケート集計結果②

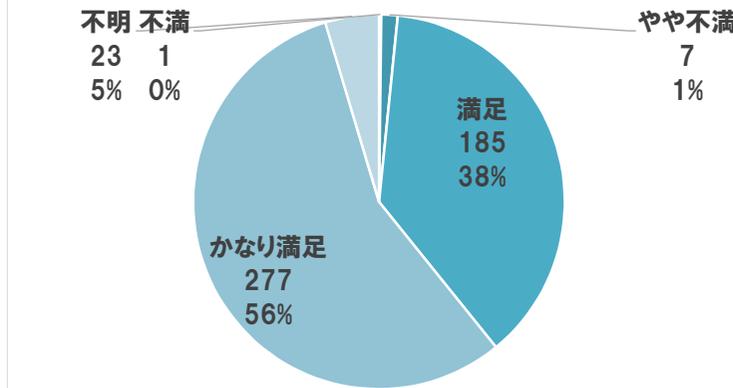


公民館全体の
満足度
【7館集計】

○9割以上の方に、満足もしくはかなり満足という回答をいただいている。

●満足度が高い一方でやや不満と回答した方も2%いる。個別の項目では、「清潔感3%」「設備・備品8%」「職員の対応1%」「受講料や使用料2%」不満もしくはやや不満と回答したが方がいる。

●公民館全体への意見として多いのは、設備備品の新調等に関するもので21件、次いで8月に実施した公民館の使用時間帯変更への意見が6件、駐車場の拡充が3件となっている。

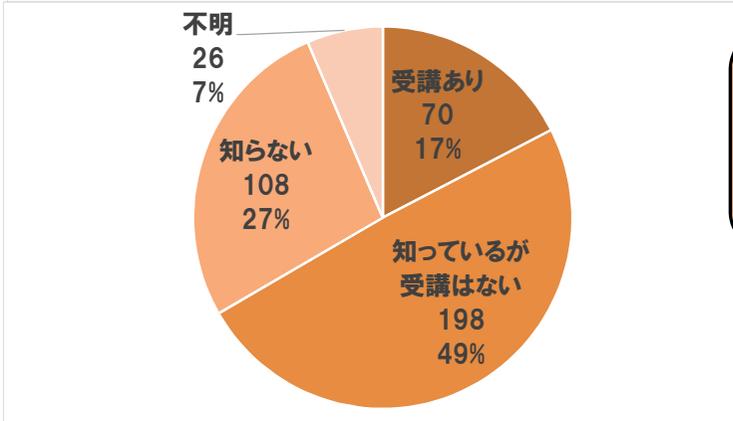


講座・講演会の
満足度
【7館集計】

○講座や講演会を受講して良かったという回答が多く、94%を占めている。

●不満、やや不満との意見は2%程度あった。意見の内容としては、講師や内容についてのもの、講座の雰囲気についてであった。講師選定、講座内容や資料についての打ち合わせ等、しっかりと行っていきたい。

○新たな講座内容へのご意見も複数いただいております、講座を企画する際の参考にしたい。



貸館団体による
講座認知度
【7館集計】

○貸館で利用している団体の、76%の方が受講経験がなく、中でも27%の方が「知らない」という回答であった。

●受講したことがある方は、全体の17%であった。

公民館事業概要

○各館概要

館名	所在地 (別館)	開館時期	延床面積(m ²)	併設施設	休館日
住之江	東灘区住吉宮町2丁目2-3 (東灘区住吉宮町2丁目1-3)	S51.5.29	731 m ² (本館 431 m ²) (別館 300 m ²)	-	日(夜間)、月、 祝、 年末年始
葺合	中央区真砂通2丁目1-1 (中央区南本町通5丁目1-2 4)	S52.6.23	993.83 m ² (本館 824 m ²) (別室 169.83 m ²)	児童館	土(夜間)、日、 祝、 年末年始
清風	中央区楠町8丁目10-3 (中央区中山手通8丁目1-3)	S54.8.30	1,413 m ² (本館 839 m ²) (別館 574 m ²)	児童館	
長田	長田区四番町4丁目5 1 (長田区四番町4丁目5 4)	S52.5.27	2,228 m ² (本館 1,416 m ²) (別館 812 m ²)	児童館、 地域福祉センター	
南須磨	須磨区青葉町2丁目2-3	S53.12.12	710 m ²	-	
東垂水	垂水区東垂水1丁目1-1	S54.10.11	1,253 m ²	児童館	
玉津南	西区玉津町上池3 1 4	S52.5.8	1,750 m ²	-	

○公民館利用者数

令和3年度 135,172人 (R2 100,123人 R1 208,678人)

○貸館事業

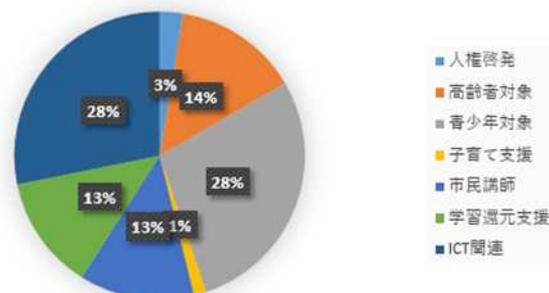
	R2	R3
利用コマ数	3,719	4,796
延べ利用者数	40,619	54,478

○講座事業

単位：実施回数(延べ利用者数)

	R2	R3
春季講座	中止	154 (1,382)
秋季講座	139 (1,488)	193 (1,935)
サマースクール	2 (29)	98 (1,289)
通年講座	169 (861)	332 (2,100)
計	310 (2,378)	777 (6,706)

実施講座内容



○登録グループ 令和3年度：7館計 191グループ、2,463人 延べ5,252回 延べ57,510人

令和4年度読書週間行事報告

パネル展示

中央図書館 「しみじみおいしいお茶のハナシ」 10月21日～11月18日

資料展示

中央図書館 「みんなでいっしょに出かけよう！」（児童） 10月21日～11月30日
 東灘図書館 「あの時をもう一度」（一般） 10月18日～11月20日
 「あなたの『懐かしい』はなんですか」（一般） 10月18日～11月20日
 灘図書館 「実際に作ってみました」（一般） 10月18日～11月20日
 三宮図書館 「SANNOMIYAブックコレクション」（一般） 10月25日～11月27日
 兵庫図書館 「ミステリーの森へようこそ」（一般） 10月18日～11月13日
 北図書館 「作りませんか？私だけのモノ」（一般） 10月22日～11月30日
 「キングオブブック」（児童） 10月22日～11月18日
 「キングオブブック シリーズへつづく」（児童） 10月22日～11月30日
 北神図書館 「いまこそ笑おう！いっぱい笑おう！」（一般） 10月27日～11月30日
 新長田図書館 「文豪に出会う秋」（一般） 10月18日～11月13日
 「私の好きな文豪」（一般） 10月18日～11月13日
 須磨図書館 「開幕！須磨運動会」（一般） 10月12日～11月13日
 名谷図書館 「おともも楽しい児童書の世界」（一般） 10月21日～11月18日
 「学びの世界は∞」（一般） 10月21日～11月18日
 「わくわくは ∞」（児童） 10月21日～11月18日
 垂水図書館 「建テモノガタリ～建ててきたもの、築いていくもの～」（一般） 10月18日～11月20日
 「『ありがとう』のおすそわけ」（一般） 10月18日～11月20日
 西図書館 「あらためまして はじめまして!!西図書館へようこそ」（一般） 10月25日～11月13日

講演会、講習会など

中央図書館 講演会「元素でたどる考古学ー古代を探る科学の目ー」 10月15日 35人
 東灘図書館 プログラミング体験講座～ロボット「こくり」は動くかな?～ 10月29日 9人
 北神図書館 「マイクラフトでSDGsを考えよう」 10月29日(3回) 37人

手づくり会・工作教室など

東灘図書館 大人の工作教室「ペーパーフラワーで作る華やかブーケ」 11月3日 7人
 灘図書館 「トールペイントの世界」 11月3日(2回) 9人
 三宮図書館 「ちいさな工作教室」 11月6日(時間中随時) 27人
 兵庫図書館 「毛糸のポンポンで作るハロウィンカボチャ」 10月29日 7人
 新長田図書館 工作会「ハロウィンにきみも魔法使いになれる!マジック工作☆」 10月30日 5人
 「本にカバーをかけよう～ブックコーティング入門～」 11月3日 3人
 須磨図書館 製本教室「和綴じ本を作ろう」 10月26日 3人
 親子工作教室「おうちにあるもので万華鏡を作ろう」 10月29日 8人
 大人の工作教室「水引きで飾りを作ってみよう」 11月11日 4人
 垂水図書館 工作教室「大人のための切り紙講座」 11月3日 5人
 工作教室「図書館バッグをプロデュース！」 11月5日 7人
 西図書館 「趣味ノートをつくろう」 11月3日 10人

映画会

灘図書館 読書週間特別映画会 10月25日・26日(計2回) 20人

雑誌リサイクルフェア

中央図書館	11月1日	譲渡者数	266人	譲渡冊数	1212冊
東灘図書館	11月12日	譲渡者数	127人	譲渡冊数	985冊
北図書館	10月30日	譲渡者数	86人	譲渡冊数	501冊
北神図書館	11月12日・13日	譲渡者数	150人	譲渡冊数	743冊
新長田図書館	11月6日	譲渡者数	98人	譲渡冊数	726冊



「大人の朗読会」（三宮図書館）

おはなし会・ストーリーテリング

中央図書館	おはなし会	10月22日	21人
	絵本おたのしみ会	10月28日	6人
	かみしばいの会	11月5日	39人
	たんぽぽおはなし会	11月12日	17人
東灘図書館	みんなのおはなし会	10月22日(2回)	17人
	おはなし会	10月23.30日・11月6.13.20日	29人
	ミニ工作付きおはなし会	11月5日	8人
	こどもと大人が楽しむおはなし会	11月6.13日	18人
灘図書館	おひざのうえのおはなし会	11月9日(2回)	42人
	おひざのうえのおはなし会	10月27日	21人
	ミニ工作つきハロウィンおはなし会	10月30日	11人
三宮図書館	おはなし会	11月6日	11人
	おはなし会	10月29日・11月5.12日	25人
兵庫図書館	大人の朗読会	10月30日・11月3.13日	12人
	おはなし会	10月15.22(2回)日・11月12日	38人
北図書館	おひざのうえのおはなし会	10月28日	28人
	おはなし会	10月22日	12人
北神図書館	おひざのうえのおはなし会	11月5日	4人
	大人のためのおはなし会	11月3日	26人
	秋の古民家で朗読ライブ	11月6日	36人
	おはなしとえほんの会	11月12日	6人
	おひざのうえのおはなし会	10月19日	29人
	ほくほくおはなし会	10月22日	9人
新長田図書	大人のためのストーリーテリング	11月3日	20人
	おはなし会	11月5日	10人
	おひざのうえのおはなし会	10月19日	9人
	大人の楽しい朗読	10月22日	6人
	秋の大人のためのおはなし会	10月27日	4人
	えほんの会	10月29日	4人
須磨図書館	おはなし会	11月5日(2回)	10人
	ちいさなおはなし会	10月15日	6人
	えほんおはなし会	10月22日	11人
	おひざのうえのおはなし会	11月4日	12人
名谷図書館	おはなし会	11月12日(2回)	17人
	みつばおはなし会	10月15日	12人
	ふたばおはなし会	10月20日	12人
	おひざのうえのおはなし会	11月3日	10人
垂水図書館	よつばおはなし会	11月12日	8人
	おはなし会	10月27日・11月2.5日	29人
西図書館	ふれあいおはなし会「FUN FAN BOOK PARTY!」	11月19日	16人
	わくわくおはなし会	11月3日	14人
	季節のおはなし会特別版「秋の夜長におはなしを」	11月12日	13人

その他のイベント

中央図書館	「図書館ビンゴに挑戦しよう!～読書の秋編～」	10月21日～11月13日	88人
	「図書館ミニツアー」	11月5日(2回)	9人
灘図書館	「読書の葉」	10月18日～11月20日	24人
	「図書館で落語」	10月29日	11人
兵庫図書館	「おかえり、記憶の街」記憶の街ワークショップin六甲道	11月5日	5人
	「としょこちゃんとピクニックへ行こう!」	10月4日～11月13日	29人
北図書館	「キングオブブック」	10月22日～2月28日	26人
北神図書館	「北神で川柳よんで笑おうね」	10月1日～11月23日	応募数91点・投票数322人
	スタンプカード「北神図書館で秋の収穫祭!」	10月15日～11月13日	253人
須磨図書館	図書館べんりガイド「クイズで図書館をマスターしよう」	10月12日～11月13日	65人
名谷図書館	「読書でビンゴゲーム!」	10月22日～11月13日	42人
西図書館	「あっち?こっち?たんけん!クイズラリー」	10月25日～11月13日	159人
	「Love Love Libraryスペシャル!～図書館探検ツアー～」	10月29日	5人

こうべっ子読書活動推進プログラム

子どもの読書活動は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、思考力や表現力を高め、創造力を豊かにし、人生をより深く生きる力を身につけていく上でとても大切なものです。本は私たちを様々な世界へ連れて行ってくれ、様々な人々と心を通わせる体験をさせてくれます。

また、インターネットやSNSなどが普及している現代の情報化社会においては、子どもたちが多様な情報通信手段の特徴を活かして読書に親しみ、必要な情報を的確に選択して活用できるようになることも期待されています。すべての子どもが魅力ある本にふれ、読みたい時に読みたい場所で自主的な読書活動ができるように、子どもの発達段階に応じた取組みにより、子どもの読書習慣を形成し、読書活動をめぐる諸条件を整備することを目的として、本プログラムを策定します。

家庭・地域



学校園



図書館



神戸市

令和3年4月

1. 家庭における読書活動推進の取組

幼い頃から本に親しむことは、子どものことばや心の成長にとって大いなる栄養素になると言われています。家庭は基本的な生活の場であり、子どもが日常生活を過ごすなかで自然に本を親しむことができる環境をつくることが重要です。保護者が子どもの成長にあわせて絵本の読み聞かせをしたり、子どもと一緒に本を読んだりするためのきっかけとなるよう、子育て関係部局と図書館、学校園が連携し、さまざまな本の紹介や家族での読書活動の推進に取り組んでいきます。

◆ 読書へのきっかけづくり

○ 乳幼児期から絵本にふれあう機会づくり

- ・子育て支援センターと図書館の連携により保護者向け講座を充実
- ・読み聞かせボランティアと協働して乳幼児を対象としたおはなし会等を開催
- ・ホームページや子育て関連SNS等での情報発信



乳幼児と保護者向け絵本講座

○ 家庭での読書推進

- ・「家読（うちどく）」の推進 … 子どもを中心に家族で同じ本を読み、交流を深める
- ・家族での図書館利用の推進

2. 地域における読書活動推進の取組

子どもの読書活動を推進するためには、子どもの身近なところで本と親しむことができる環境をつくるのが重要です。このため、子どもが気軽に立ち寄り、本と出会う環境を地域に整備するとともに、とりわけ読書離れが危惧される中高生を引き付ける行事やしかけ、情報発信を行うなど、読書活動の普及・啓発に努めます。

また、子どもの読書活動推進の大きな担い手である読書ボランティアの活動を支援し、連携した取組を行います。

◆ 地域における本に親しみやすい環境づくり

○ 児童館や公民館、家庭文庫等における、本に親しみやすい環境づくり

- ・おはなし会や読書につながるイベント開催

○ 青少年施設との連携

○ 市民図書室の利用促進

○ 読書ボランティアとの協働



ボランティアグループによるおはなし会

3. 学校園における読書活動推進の取組

学校、幼稚園や保育所（園）等は、子どもの主体的、意欲的な読書習慣を培う場として、重要な役割を担っています。このような場において、計画的、継続的に子どもの読書活動が推進されることは、子どもの読書に対する意欲の向上や読書習慣の確立、さらには言語能力の向上のためにとっても大切なことです。

学校園においては、幼稚園・保育所（園）の蔵書の充実や学校図書館の活性化等、子どもの読書環境の整備を行うとともに、本との出会いづくりや読書への意欲を高める取組を行います。また、保護者や地域と連携した読み聞かせの実施や学校図書館の活性化を図るとともに、情報発信を行います。幼稚園・保育所（園）においては、園児だけでなく地域の幼児や保護者に対する読書活動推進の取組を行います。

幼稚園・保育所（園）

◆ 絵本や物語との楽しい出会いづくり

- 園児への絵本の貸出や、親子絵本貸出の充実
- 日本語を第一言語としない子どもや、特別な支援を必要とする子どもへの読書活動推進
- 市立図書館との連携

小学校・中学校・高等学校等

学校においては、司書教諭や学校司書が中心となり、学校全体での読書活動の計画的な実施や、各教科等の授業における図書館の積極的な活用を進めるとともに、地域や家庭の協力を得ながら、子どもが学校でも家庭でも読書の時間を楽しみ、本にふれる機会を増やす取組を進めます。

◆ 読書の機会づくり、読書への意欲を高める取組の実施

- 発達段階に応じたイベントなど読書活動推進の取組内容の充実
 - ・ 朝の読書活動、ブックトーク、ビブリオバトル（書評合戦）、読書会などの実施
 - ・ 児童生徒の図書委員会活動等の活性化
 - ・ 読書に関する情報発信
- 学習指導要領を踏まえた読書活動、言語環境の整備充実
 - ・ 司書教諭、学校司書が連携して学校図書館を計画的に活用した読書指導、学習指導を推進



委員章でやる気アップ

◆ 学校図書館の機能強化

- 学校司書配置を進め、学校図書館の機能を強化
- 図書資料の充実、図書以外の多様な資料の提供
 - ・ 新聞、雑誌、パンフレット、視聴覚資料等の提供、及びデジタルコンテンツの紹介
 - ・ 電子書籍の利用



整備された学校図書館

○ 組織的計画的な学校図書館の活用の推進

- ・ 年間活用計画の策定
- ・ 統計による学校図書館の評価

○ 教育のICT化への対応、情報センター機能の強化

- ・ 図書館管理システムの導入の検討
- ・ 図書館のICT環境整備、情報機器の整備

○ 学校図書館に関わる研修の充実

- ・ 司書教諭・学校図書館担当教員研修、学校司書研修等

◆ 保護者・地域・他機関等との連携、情報発信

○ 市立図書館との連携

○ 保護者・地域への情報発信、啓発

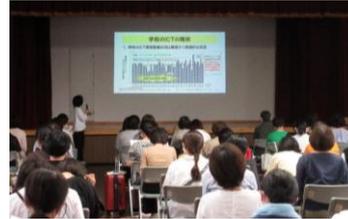
○ ボランティアとの協働



活用促進のための計画作成



学校司書研修の様子



特別な配慮を必要とする児童生徒への取組

「視覚障害者等の読書活動の整備の推進に関する法律（読書バリアフリー法）」の理念にのっとり、障害の種類、程度にかかわらず等しく読書の機会が保障されることをめざします。また、日本語を第一言語としない児童生徒が豊かな読書活動が行えるよう環境整備と支援に努めます。

◆ 学校図書館を通じて、一人一人のニーズに応じた読書環境の提供

○ 学校図書館の整備

- ・ 利用案内や配架、サイン、資料提供方法等の工夫

○ アクセシブルな書籍や電子書籍等のニーズに応じた資料の提供

○ 日本語を第一言語としない児童生徒や異なる文化を背景に持つ児童生徒への資料提供

○ 読書支援機器の提供や利用支援

○ 点字図書館、市立図書館等との連携

○ ボランティアとの協働



資料提供の工夫



手作りのリーディングトラッカー
(読書支援)

4. 市立図書館における読書活動推進の取組

子どもの読書活動推進の中核を担う図書館には、子どもたちが読みたい本や知りたい情報が十分にあることが重要です。そのため、図書資料の充実を図るとともに、子どもたちの読書スペースを充実し、読書環境を整備します。また、司書の資質向上に取組み、おはなし会などの行事や本に関わるイベント実施により、読書のきっかけづくりを行い、本や情報の探し方について発信し、子どもたちの情報活用を支援します。

また学校園、他機関、地域と連携し、館外へ出向いての取組や子どもの読書を支える大人への働きかけを行います。

◆ 生涯にわたって読書を楽しむ習慣を育てるための読書環境の整備

○ 児童書の充実

- ・子どもの興味・関心を広げる図書、学習に対応した幅広い図書の収集
- ・長く読み継がれ定評のある図書の提供

○ 乳幼児と保護者向けサービス（再掲）

○ 館内外での子どもと本をつなぐイベント実施、情報発信

- ・定例おはなし会、こどもの読書週間行事等の開催
- ・図書紹介リーフレット「としょ☆ぴか」（月刊）およびブックリストの発行

○ 小・中学生への調べ学習支援

- ・情報の探し方講座やイベントの実施、調べ方ガイドの作成

○ YAコーナーの充実を中心とした青少年層への読書推進

- ・10代の子どもたちを対象にした図書の充実や、テーマ展示の実施
- ・中高生同士が本を通して交流できるイベントの開催
- ・ホームページやSNS上での情報発信

◆ 学校園との連携

○ 授業支援のための資料提供

- ・総合学習用図書セットの貸出
- ・「テーマ本集め」による団体貸出（学習に関連する個別テーマでの図書提供）

○ 幼稚園への絵本セット巡回貸出

○ 教育委員会との連携による学校図書館運営の支援

- ・司書教諭および学校司書に対する研修、情報提供

○ 学校園へのお出前授業（ブックトーク、調べ学習講座等）

◆ 子どもの読書活動に関わるボランティア等との連携および支援

○ ボランティア活動に役立つ読み聞かせ講座等の実施、新刊本の情報提供

○ ボランティア交流会の開催

○ ボランティア団体との連携企画実施



ブックリスト「えほんの小箱」



図書館バックヤードツアー



調べ学習応援講座



ボランティアへの近刊紹介

◆ 特別な配慮が必要な子供たちへの支援

- 日本語を第一言語としない子ども、特別な支援を必要とする子どもに向けた図書の充実
 - ・大活字本やＬＬブック等アクセシブルな資料の収集・提供
 - ・ユニバーサル図書コーナーの設置
 - ・多言語による利用案内リーフレット作成
 - ・点字図書館との連携



「ブックトーク」自主研修会

◆ 児童サービス担当者の人材育成

- 自主研修会の実施、館外研修会等への参加

◆ ICT社会における子どもたちの読書、情報活用の支援

- 「神戸市電子図書館」（令和3年1月稼働）の充実と活用
- 紙の本とデジタル情報の相互利用による読書推進

5. こども本の森 神戸

「こども本の森 神戸」（令和4年春開館予定）は、寄付をされる建築家の安藤忠雄氏の思いを受け、「こどもたちに対して、良質で多様な図書または芸術文化及び歴史に触れあえる環境を提供する施設」として整備を進めるとともに、近隣施設、地域団体、企業、その他各種団体等との連携を図り、様々な企画などにより、本に触れあえる機会の創出に取り組んでいきます。



取組内容	成果・課題等
<p>柱：子供への読書活動推進</p>	
<p>大項目：1. 家庭における読書活動推進の取組</p>	
<p>中項目：◆読書へのきっかけづくり</p>	
<p>○乳幼児期から絵本にふれあう機会づくり</p>	
<p>(図書館取組) ・赤ちゃん絵本コーナーを全館に設置。乳幼児と保護者の絵本活用を図った。 ・種類別に置き、見出しを付けるなどの配架の工夫を行った。 ・保護者向けに絵本を紹介する一般図書なども併せて配架した。 ・人気のある絵本については複数冊数を揃え、傷みのある本はこまめに買い替えた。 ・子育て関連のチラシ・パンフレットも近くに置き、保護者の目にとまりやすいようにした。 (自動車図書館での子育て支援の取組/図書館)平成29年度～ ・子育て関連のチラシ・パンフレット、本のリストや読書記録帳を、備え付けのラックに設置・配布。 ・「子育て関連図書コーナー」を自動車図書館の棚内に設置。関連図書および児童書の購入を進めた。</p>	<p>・関連図書を集めたことで、乳幼児保護者の利便性が高まった。冊数・種類の増加などコーナーの充実により、利用者の選択肢が増えた。 (自動車図書館での子育て支援の取組/図書館)平成29年度～ ・図書館から離れた地域の子供と保護者に対する情報提供を行うことにより、子育て世代を支援し、子供たちを読書に誘えるよう努めた。 ・「子育て関連図書コーナー」を作ることで、利用者の利便性を高め、貸出利用促進を図った。</p>
<p>子育て支援センターと図書館の連携により保護者向け講座を充実 ・兵庫図書館「おはなしゆりかご」(地域子育て支援センター兵庫)、新長田図書館「ほのぼのひろば」(地域子育て応援プラザ長田)、西図書館「おおぞらプラザ」(地域子育て応援プラザ西)などの講座を開催。(図書館) ・乳幼児と保護者に向けて、絵本の楽しみ方についてレクチャーし、おはなし会を行う「だっこでおはなし」を実施(於：児童館、子育て支援センター等)。<R3:35回 550人>(図書館) ・「すくすく赤ちゃんセミナー」での、乳幼児の保護者に向けた読み聞かせについての啓発<26年度104回実施、27年度102回実施、28年度99回実施、29年度98回実施、30年度103回実施、31年度95回実施、2年度64回実施、3年度72回実施>(子ども家庭局家庭支援課) <R3:8回>(図書館)</p>	<p>・絵本の読み聞かせ・手遊び歌などのふれあいと育児相談という組み合わせが好評。(図書館) ・保護者の交流の場ともなっている。(図書館) ・保護者の方と直接話すことで家庭での読み聞かせの後押しとなり、実際に本を手にとって見てもらうことで絵本選びの参考にもなっている。また、図書館への来館のきっかけにもなっている。(図書館) ・児童館や子育て支援センターで開催しているが、施設を利用していない市民や、子どもの読書に関心の薄い保護者へのアプローチ方法が課題。(図書館) 「すくすく赤ちゃんセミナー」での、乳幼児の保護者に向けた読み聞かせについての啓発 ・「すくすく赤ちゃんセミナー」での啓発により読書への関心が深まった。(図書館) ・子育てに絵本を取り入れてもらうことを保護者にもれなく啓発できた。(図書館) ・令和2年度から新型コロナウイルス感染症の流行によりオンラインでの開催となり、以降継続中。(図書館)</p>
<p>読み聞かせボランティアと協働して乳幼児を対象としたおはなし会等を開催 ・市立幼稚園では、読み聞かせボランティアによる、「読み聞かせの会」を定期的実施している。(令和2年度、3年度は感染症対策のため実施を見合わせている幼稚園があったが、令和4年度より徐々に再開している)(学校教育課) ・園外からのボランティアが難しい場合には、担任以外の職員による読み聞かせの機会をもつなど工夫している。(学校教育課) ・読み聞かせボランティアによる、「読み聞かせの会」を定期的実施している。(令和2年度、3年度は感染症対策のため実施を見合わせ)(図書館)</p>	<p>・大勢の幼児が一同に会して、ゆったりとした雰囲気読み聞かせの会に参加することは、お話に触れるだけでなく、気持ちの面での育ちも大きい。(図書館) ・読み聞かせボランティアとの確保、日程調整等が難しい。(図書館) ・感染症対策などを講じる上で、実施を見合わせる必要があることも課題である。(図書館)</p>
<p>ホームページや子育て関連SNS等での情報発信 (図書館) ・館内での行事案内ポスター掲示、チラシ配布 ・広報紙KOB Eへの行事案内掲載 ・図書館ホームページ：「行事案内」「乳幼児の保護者の方へ」「こどものページ」の各ページ ・Facebookでの開催済みイベントの紹介発信(FBはR3.9で終了)、R4以降は、Twitterでイベントのお知らせと、開催後の紹介発信。 ・4か月児健康診断時の赤ちゃん向けに「絵本とおつきあい、はじめてみませんか」配布 ・リーフレット「あかちゃんと保護者の方へ：図書館利用ガイド」の配布 ・『えほんの小箱』(0～2さい、3さい～の2種)の発行。館内のほか、市内の一部イオンなど商業施設でも配布 ・他部局、関係機関、民間団体等が運営するインターネット情報発信への情報提供 「こうべ子育て応援カレンダー」への情報提供(兵庫・新長田・中央) 「KOB E子育て応援団ママフレ」への情報提供(全館) イベントサイト「KOB E Today」にイベント情報掲載 ・妊娠中からの絵本に親しむきっかけづくりとして、母子健康手帳と一緒に配布する「神戸っ子すくすくハンドブック」での、読み聞かせの意義の啓発、図書館の利用案内を掲載</p>	<p>・行事参加者への聞き取りによると、館内掲示やチラシを見て参加との声が意外に多い。また、広報紙・HPを見ての問い合わせもよくある。(図書館) ・紙媒体、インターネットの両方での広報が有効。 ・『えほんの小箱』では、絵本についてのひと言欄を設けた。保育士、ボランティア、図書館員からのおすすめポイントや子どもの反応を掲載したことで、おすすめする説得力が増した。(図書館) ・「神戸っ子すくすくハンドブック」による情報提供により読書への関心が深まった。(図書館)</p>
<p>○家庭での読書推進</p>	
<p>「家読(うちどく)」の推進…子どもを中心に家族で同じ本を読み、交流を深める ・「家族が熱い一週間」キャンペーン紙秋号への、家庭での読書を啓発する記事の掲載 H26～H28 キャンペーン紙にて親子向け書籍を紹介 H28末 キャンペーン紙の発行を終了 ・小学校では「やったあ！読書の日」等、他の宿題を出さず家庭で読書することを宿題とする日を設定する学校がある。(教科指導課)</p>	<p>・書籍の紹介を通じ、家庭での読書の啓発という目的を達成した。 ・「やったあ！読書の日」は児童に好評で、保護者に対しても家庭での読書を啓発する機会となっている。(教科指導課)</p>
<p>大項目：2. 地域における読書活動推進の取組</p>	
<p>中項目：◆地域における本に親しみやすい環境づくり</p>	
<p>○児童館や公民館、家庭文庫等における、本に親しみやすい環境づくり</p>	
<p>・各児童館に図書室を設置。 ・各公民館に図書コーナーを設置し、図書貸出も実施している。 ・玉津南公民館でH28年4月から「予約図書受取コーナー」を開設(図書館)</p>	<p>・利用者への、読書のきっかけづくりとなった。</p>
<p>○青少年施設との連携</p>	
<p>・図書館では他部局や地域の社会教育施設、民間の関係団体等と連携し、講座、企画展示、出前おはなし会や様々なイベントなどを行っている(図書館) <連携先>児童館、公民館、動物園、埋蔵文化財センター、神戸文化ホール、青少年科学館、神戸市精神保健福祉センター、神戸アーカイブ写真館、日本政策金融公庫、NPO法人、福祉団体等</p>	<p>・各地域図書館は地元根差した活動を行っている。図書館が、地域に溶けこみ親しまれるようになり、図書館が関わるイベントが地域住民の交流の場ともなっている。 ・青少年施設との連携により、その施設の特長やイベントのテーマに合わせて、幅広い分野の本を紹介することができた(図書館) ・図書館を日常的に利用されていない市民にも図書館のPRができた(図書館)</p>
<p>○市民図書室の利用促進</p>	
<p>・学校施設開放事業ホームページにて、市民図書室の開室時間等情報を公開している。(総務課) ・図書館から、セット配本を希望する市民図書室への団体貸出(H25～R3終了)(図書館) ・12か所の市民図書室に予約図書受取コーナーを設置(H25～H28)(図書館)</p>	<p>・予約図書受取コーナーの設置により、これまで市民図書室を利用していなかった方も来室されるようになった(図書館)</p>
<p>○読書ボランティアとの協働</p>	
<p>・定例のおはなし会を中心に、子供等の読書推進ボランティアと協働している(R3:29団体)(図書館)</p>	<p>・読み聞かせやおはなし会の運営についてなど情報共有ができ、互いにスキルを高めあうことができた。</p>
<p>大項目：3. 学校園における読書活動推進の取組</p>	
<p>幼稚園・保育所(園)</p>	
<p>中項目：◆絵本や物語との楽しい出会いづくり</p>	
<p>○園児への絵本の貸出や、親子絵本貸出の充実</p>	
<p>・市立幼稚園では、各園の実情に合わせた絵本コーナー、絵本の部屋、保育室ごとの絵本コーナー等の設置している。(学校教育課) ・「図書貸出日」を設定し、親子で様々な絵本に触れられるようにしている。(学校教育課) ・園だより、絵本だよりで、絵本を紹介したり、参観時に、絵本の新刊を展示したりする。</p>	<p>・季節ごとに絵本の部屋やコーナーを見直すことで、教員自身も絵本に触れる機会が増え、教材研究につながった。(学校教育課) ・「図書貸出し」を行うことで、様々な絵本に触れることができる。また、親子で絵本を見たり、保護者に読み聞かせてもらったりする機会となっている。(学校教育課)</p>
<p>○日本語を第一言語としない子どもや、特別な支援を必要とする子どもへの読書活動推進(子ども家庭局幼保振興課)</p>	
<p>・幼稚園・保育所(園)では、幼児に対する読み聞かせや紙芝居を定期的に行うことで、読書への興味関心を高めている。</p>	<p>・現在の取組を継続して実施する。</p>
<p>○市立図書館との連携</p>	
<p>・幼稚園巡回図書貸出 H27年度より、中央図書館から幼稚園へ絵本セットの巡回貸出を始めた。巡回用絵本を年間約1,000冊、図書館用とは別に購入している(28年度までは「神戸市置塩こども育成基金」を利用)。 <R3:市立28園 私立14園(@40冊×3回)、R4:市立29園 私立12園(@40冊×3回)>(図書館) (市立幼稚園での保護者への推薦図書や新刊絵本等の紹介) ・園だより、絵本だよりで、絵本を紹介したり、参観時に、絵本の新刊を展示したりする。(学校教育課)</p>	<p>・おもに新刊書から選書した絵本を巡回している。「幼稚園にない本に触れることができ、教諭も子供も発見が多い」との意見を園からいただいている。(図書館) ・貸出図書についてのアンケートを園から返してもらっており、園児たちの反応や教諭の感想を、展示やおはなし会などの活動に役立てられた。(図書館) ・絵本の紹介については、著作権の観点から難しい面もあり、情報発信の方法を工夫する必要がある。(学校教育課) ・就労等幼稚園に来る機械が少ない保護者がいるため、参観時の親子の読み聞かせには配慮がいる。(学校教育課)</p>

取組内容	成果・課題等
<p>小学校・中学校・高等学校等</p> <p>中項目：◆読書の機会づくり、読書への意欲を高める取り組みの実施</p>	
<p>○発達段階に応じたイベントなど読書活動推進の取組内容の充実（教科指導課）</p>	
<p>朝の読書活動、ブックトーク、ビブリオバトル（書評合戦）、読書会などの実施（教科指導課）</p> <ul style="list-style-type: none"> 朝の読書活動に取り組みとともに、読書月間など期間を決めて取り組んだ。 朝の読書活動：小学校H30 135校（93%）、中学校R3 55校（67%） 読書イベント、全校読書会、放送読書会、読み聞かせの会などで読書のきっかけづくりを行った。 小学校では読み聞かせの会、中学校では読書会を実施する学校が多い。 読書会：R3 中学校59校（72%） 	<p>（教科指導課）</p> <ul style="list-style-type: none"> 朝の読書活動は小中ともに多くの学校で取り組みが見られた。その他の読書イベント、読書会なども実施された。 授業時間の確保のために、朝の読書活動やボランティアによる読み聞かせなどの時間が縮小傾向にある。 読書活動推進として読書感想文、感想画コンクールを位置付けることは、教員の負担軽減の観点からも再考の必要がある。 各小学校の「おきしお文庫」については設置から10年が経過し役割を終えたことから、解体し一般書架に配架する学校もある。
<p>児童生徒の図書委員会活動等の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> 小中学校ともに、学校図書館開館補助、読書週間などの行事の企画運営に取り組んでいる。 小学校では日々の図書館開館や整備、委員による低学年への読み聞かせ、掲示物作成、イベントなどに取り組んでいる。 中学校では、日々の図書館の開館や整備、イベント、POP等による本の紹介、読書会、図書館だよりの発行などに取り組んでいる。 中学校で年1回市立図書館を会場に実施している「係り生徒のつどい」は、R2～R4年度はコロナウイルス感染症の影響により中止した。（教科指導課） 	<ul style="list-style-type: none"> 小中ともに委員会活動として様々な取り組みが見られた。 （例）ポップコンテスト、手作りしおりプレゼント、図書館クイズ、ビブリオバトル等 中学校では、地元書店と連携し、書店に図書委員の紹介本コーナーを作りおすすめ本コーナーを作って事例がある。（教科指導課） 小規模校では図書委員会がない、単独では成立しないところもあり、委員会活動も各校の実情に応じた取り組み方を考える必要がある。
<p>読書に関する情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> 各校で「図書だより」で新刊紹介やおすすめ本の紹介、読書感想文の書き方の提示などを行うとともに、図書の展示、校内放送等により、児童生徒に情報提供を行った。 図書だより発行：小学校H30 135校（93%）、中学校R3 72校（88%） 各校での読書イベントや図書館での読書活用の様子をホームページに掲載し、情報提供を行った。 子ども読書の日のポスターを学校図書館に掲示するなど周知を図った。 教職員が閲覧するPCコミュニティへ全教職員と学校司書を対象とした学校図書館を支える便り「Library Doors」をアップ（学校司書を支える便り「司書☆びか」（H26～R3）からR4に変更）。 教育委員会ホームページの「学校図書館のページ」に神戸市学校司書事業等、学校図書館について掲載。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校司書配置校では、学校司書が「図書だより」を発行し、積極的に新刊はじめ図書紹介などを行っている。 読書活動の取組について学校のホームページで情報発信している学校は少数に止まっている。 「子ども読書の日」については定着しているが、学年は4月に設定されていることもあり、積極的な読書活動を行うことが難しい学校もある。
<p>○学習指導要領を踏まえた読書活動、言語環境の整備充実（教科指導課）</p>	
<p>司書教諭、学校司書が連携して学校図書館を計画的に活用した読書指導、学習指導を推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 発達段階に応じて、教科での学習と読書活動を結びつけることができるよう、系統的な指導に取り組んだ。 読書を通して、言語能力を高めていくことができるよう、学校図書館を利用して本から得た情報を自らの言葉で表現できるよう取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 国語科の単元の中に、積極的に並行読書と取り入れている。学校司書と連携し、国語の単元の中でブックトークや読み聞かせを行うことで、児童生徒の多読に繋がった。なかなか読む機会のない文学作品にも手がのびるようになってきた。 国語科での読書活動は各学校進んできているが、他教科での読書活動が進んでない。 探究的な学びにつながる授業づくりを目指す。 探究的な学びを目指すために、教員と学校司書との連携を密にすること、学校図書館の資料を充実させる。
<p>中項目：◆学校図書館の機能強化</p>	
<p>○学校司書配置を進め、学校図書館の機能を強化（教科指導課）</p>	
<ul style="list-style-type: none"> 小中学校への学校司書配置を進めたことで、環境整備や開館時間が拡大した。 学校司書配置校 R4 224校（配置率91%） 学校司書による調べ学習に使用する図書の準備、ブックトークやパスファインダー作成等授業支援の内容が充実するとともに、各教科での学校図書館活用が進んだ。 小学校：ほとんどの学校で、並行読書、百科事典・図鑑を使った調べ学習を実施 中学校：特に総合学習での図書館資料の活用（67%） H30：小学校160校 中学校55校 	<ul style="list-style-type: none"> 配置開始から9年で9割の配置行われ、R5年度に全校配置が完了予定である。 蔵書の充実や配架の改善、資料展示等において、配置による効果が著しい。 小学校での授業活用は非常に進んだが、中学校においては小学校ほどではない。 様々な教科での活用や教科横断的な学校図書館活用が今後の課題である。 2校を担当する学校司書の割合増加に伴い、学校図書館担当教員と学校司書との職務内容の明確化を図った。 学校司書としての授業支援の仕方、授業との関わり方なども今後検討の余地がある。
<p>○図書資料の充実、図書以外の多様な資料の提供（教科指導課）</p>	
<ul style="list-style-type: none"> 小中学校では学校図書館図書標準達成に向けて蔵書の充実に向けて、児童生徒の発達段階や興味関心、授業等に役立つ図書の充実を図った。 汚破損本や内容の古くなった図書を積極的に除籍し、必要に応じて買いなおすことで、魅力的な蔵書づくりを行った。 学校図書館図書標準達成状況 R3 小学校86.5% 中学校 76.5% 小中学校とも、多様なテーマでの図書展示や特集コーナーづくりを行った。 小中学校に対して、国の「第6次学校図書館図書整備等5か年計画」における新聞配備の方針について周知、学校図書館担当者や学校司書の研修会において、新聞配備の工夫や授業での活用について研修を行うなど、新聞配備を推進した。 新聞を配備している学校（R4調査） 小学校：97校（60%） 1校あたり1.3紙、中学校：43校（52%）1校あたり1.9紙、高校：1校（13%）1校あたり1紙 高等学校の蔵書数、貸出状況等、全国と比較しても低調である。 R1:蔵書数は全国平均の8割弱 1人当たり年間貸出冊数神戸市1冊/全国3冊 	<ul style="list-style-type: none"> 図書標準達成状況はH30時点よりも下がっているが、廃棄や整備が進んだ結果である。 今後、授業に必要な図書のさらなる充実させ、学習センター、情報センターとして活用できる学校図書館づくりが課題である。 学校司書が中心となり、時期に合わせた特集、多様なテーマを扱った特集、学習図書コーナー等、児童生徒が興味をひく内容の展示を実施。ディスプレイも工夫した。 子供によって読解力等に差があり、一人ひとりのニーズにあった資料を提供する必要がある。 研修等を受けて、新たに新聞配備を行ったり、配備方法の工夫が行われた。 高等学校においては蔵書の充実はこのからの課題であり、教科指導課としても読書活動推進に取り組めなかった。
<p>電子書籍の利用</p> <ul style="list-style-type: none"> 市立図書館の電子図書館利用推進について、教育委員会がPRを行う等連携を検討している。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校向けの電子図書館サービスは始まったばかりであるため、動向や有用性を見極めたいうえで、検討する必要がある。
<p>○組織的計画的な学校図書館の活用の推進（教科指導課）</p>	
<ul style="list-style-type: none"> 教員と学校司書が連携して行う、学校図書館を活用した授業実践を全市に発信した。 	<ul style="list-style-type: none"> 国語科及び社会科の授業での学校図書館活用はイメージがしやすいため、多くの学年が国語及び社会科の授業で学校図書館を活用し、その実践を全市に発信した。 学校図書館が自らの課題を解決する場所であることが浸透しておらず、各教科で探究的な学びを進めるにあたっての学校図書館活用が課題である。
<p>年間活用計画の策定</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校司書配置校では、各校が「学校図書館活用全体計画」「学校図書館年間運営計画」を作成し、計画に従い学校図書館の活用を推進している。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間活用全体計画等は各校が毎年作成しており、学校教育目標を踏まえて、学校図書館教育の目標を考えている。 学校図書館の教育目標から、各学年の目標を定めている。読書活動についての目標は達成されている学校が多いが、学習・情報センターとしての学校図書館の活用が進んでいないため、課題解決能力の育成についての目標は達成されていない。
<p>統計による学校図書館の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校司書配置校では、配置後に開館時間が増え、来館者数や貸出数も増加、授業での利用回数も特に小学校で増加した。 古い図書の廃棄や買い替えが進み、蔵書の更新がなされた。 	<ul style="list-style-type: none"> 全小中学校に学校司書が配置されることにより、R5からは市内全小中学校の統計が取れるようになる。 統計を活用した学校図書館の活用推進を検討する必要がある。
<p>○教育のICT化への対応、情報センター機能の強化（教科指導課）</p>	
<p>図書館管理システムの導入の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校図書館の情報化に向けて調査を行い、システムの方向性について検討した。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も引き続きシステム導入に向けて検討し、業務改善を行うとともに、システム導入による学校図書館の活性化を目指す。
<p>図書館のICT環境整備、情報機器の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校図書館に無線LANを、小学校はR4に設置、中学校はR5に設置予定である。 学校図書館でのGIGA端末を活用した授業が取り組まれるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 無線LAN設置により、学校図書館内での図書資料とインターネットの双方を活用した調べ学習が可能となった。 学校図書館資料とGIGA端末の活用した学習の好事例を発信し、多くの学校での取組を進めていく必要がある。 学校図書館の書籍と一人一台端末を活用して課題解決ができるようになり、児童生徒の探究的な学びに繋がるようにしたい。
<p>○学校図書館に関わる研修の充実（教科指導課）</p>	
<p>司書教諭・学校図書館担当教員研修、学校司書研修等</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校司書に対して、年間計画を立てて研修を行った。 R4：新規採用研修6回、1年次研修3回、2年次研修1回、全体研修2回、ブロック研修1回、経験者研修2回 市立図書館司書による、近刊図書紹介や連携事業等についての研修を行った。 R4：2回 学校図書館コーディネーターが随時巡回訪問を実施し、フォローアップを行った。 <R3訪問回数：小学校67回、中学56回> 図書館担当教員と学校司書が一同に介して行う合同研修を、継続的にしている。 R4：中学校1回 小・中学校1回 	<ul style="list-style-type: none"> 学校司書の経験値等により必要とされるテーマで研修を行っているが、スキルやニーズが多様化しており、研修内容の再考が必要。 R2、R3年度は新型コロナウイルス感染防止のため、オンラインでの開催が多くなったが、参加型の研修を望む声が多い。 学校司書の人数や配置校の増加に伴い、学校図書館コーディネーターによる各校への訪問回数が当初よりも少なくなっているため、巡回方法等再考が必要。 配置校が増えるとともに、個々の司書への課題対応も複雑になり、きめ細かなフォローアップが必要となる。 授業での学校図書館活用について、学校司書のみならず、司書教諭や図書館担当教員等教員の理解を進めていく必要がある。

取組内容	成果・課題等
中項目：◆保護者・地域・他機関等との連携、情報発信	
○市立図書館との連携（教科指導課）	
<ul style="list-style-type: none"> 市立図書館の総合学習用図書ネットワーク貸出やテーマ本貸出や団体貸出を利用した授業での資料利用を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ＜総合学習用図書ネットワーク貸出 R3：178回 16561冊＞ ＜テーマ本貸出 R3：348回 10227冊＞ 2年生「まちたんけん」等で、各区の市立図書館を見学した <ul style="list-style-type: none"> ＜R3：60日 2003人＞ 市立図書館司書が小学校中学年を対象に、絵本から読み物への移行をスムーズに行う目的でブックトーク（本の紹介）を行う「本へのとびら」や読み聞かせや調べ学習の出前事業を実施した <ul style="list-style-type: none"> ＜本へのとびら R3：5回 354人＞ ＜学校園での読み聞かせや調べ学習支援など出前授業等 R3：77回 2541人＞ 北図書館では市立4中学校の生徒が作成した本のPOPに来館者が投票するなど、中学生、高校生による本の紹介・展示を複数の図書館で実施した＜展示 R3：7回＞ 学校司書研修の講師として中央図書館司書を招いた <ul style="list-style-type: none"> R3：新規採用研修（市立図書館の使い方・学校支援事業の説明） 新刊図書、児童生徒へのおすすめ図書紹介 研究授業への図書提供や、学校図書館運営ノウハウの提供、修理講座等を受けた 高校出前授業…「絵本の読み聞かせ講座」などと題し、司書が学校へ出向いて、子どもの発達と絵本の関わりや、読み聞かせの実践について講義を行った（地域図書館） 	<ul style="list-style-type: none"> 教科指導課に中央図書館司書が配置されていることで、連携や情報共有がスムーズに行われている。 市立図書館からは多様な学校図書館支援が行われており、今後も連携した取組が必要。 市立図書館による資料提供は、学校図書館の資料不足を補っており、大変有効であるが、物流の面等で課題がある。 市立図書館から提供を受けた図書を参考に、各校でも学習に必要な図書を揃えていく必要がある。 区の地域図書館による出前授業等は、継続実施校もあり信頼関係が築けている。 市立図書館数に対して学校数が多く、全ての学校へのサービスとして行うには無理がある。 学校司書配置の広がりにより、各校でブックトークや読み聞かせ、調べ学習支援を行うことが増えてきた。 市立図書館司書による教員や学校司書への研修や情報提供は、効果的な連携として定着している。
○保護者・地域への情報発信、啓発（教科指導課）	
<ul style="list-style-type: none"> （一部再掲） 各校で「図書だより」で新刊紹介やおすすめ本の紹介、読書感想文の書き方の提示などを行うとともに、図書の展示、校内放送等により、児童生徒に情報提供を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ＜図書だより発行：小学校H30 135校（93%）、中学校R3 72校（88%）＞ 各校での読書イベントや図書館での読書活用の様子をホームページに掲載し、情報提供を行った。 子ども読書の日のポスターを学校図書館に掲示するなど周知を図った。 教育委員会ホームページの「学校図書館のページ」に神戸市学校司書事業等、学校図書館について掲載 広く市民に学校図書館についての理解を深めってもらうため「講座学校図書館入門」をH28から開催 <ul style="list-style-type: none"> ＜H28-R4 各年度50人が受講＞ R2、R3年度はコロナウィルス感染防止のため、受講者を30人に削減 	<ul style="list-style-type: none"> 学校司書配置校では、学校司書が「図書だより」を発行し、積極的に新刊はじめ図書紹介などを行っている。 読書活動の取組について学校のホームページで情報発信している学校は少数にとどまっている。 「子ども読書の日」については定着しているが、学年はじめ4月に設定されていることもあり、積極的な読書活動を行うことが難しい学校もある。 講座修了生から学校司書として採用される事例もあり、学校図書館を支える人材確保につながっている。
○ボランティアとの協働（教科指導課）	
<ul style="list-style-type: none"> 特に小学校においては、ボランティアや保護者による学校図書館の環境整備や読み聞かせなど幅広くボランティアが活動している。 <ul style="list-style-type: none"> ＜R元：ボランティア小学校92校で活動 読み聞かせブックトーク74校、配架や出返却10校、掲示物・環境整備46校など＞ 中学校においてはボランティアを活用している学校はごく少数である。 	<ul style="list-style-type: none"> 小学校では読み聞かせや整備にとどまらず、貸出返却など多くの支援を受けている。 中学校では委員会活動もあり、ボランティアを活用している学校は非常に少ない。 ボランティアの活動推進は、各校のニーズに応じた在り方を考える必要がある。 学校司書の配置が進み、ボランティアとの協働のあり方に変化がある。
特別な配慮を必要とする児童生徒への取組	
中項目：◆学校図書館を通じて、一人一人のニーズに応じた読書環境の提供	
○学校図書館の整備	
<ul style="list-style-type: none"> 利用案内や配架、サイン、資料提供方法等の工夫 車椅子等でも利用しやすい配置とし、床に座って読書ができるようにクッションマット等を設置している。 （特別支援学校での子どもの興味関心や障害に応じた図書の授業などでの活用） 	<ul style="list-style-type: none"> 現在の取組を継続して実施する。
○アクセシブルな書籍や電子書籍等のニーズに応じた資料の提供	
<ul style="list-style-type: none"> 子供の状況に応じて、興味を持てる内容やサイズの図書を授業で活用している。 障害等に応じた図書を整備した 特別支援学校では、毎年度、絵本、漫画、細工のあるものや拡大版等、発達段階や障害の状況等一人一人の応じた図書の整備を実施している。 小中学校において、アクセシブルな書籍等を収集・提供している。（教科指導課） R元年度末の学校数、およびタイトル数 <ul style="list-style-type: none"> （小学校）点字図書96校（59%）858点、拡大図書・大活字図書32校（20%）301点、録音図書（音声デジター含む）5校（3%）51点、マルチメディアデジター図書3校（2%）826点 （中学校）点字図書33校（40%）244点、拡大図書・大活字図書15校（18%）66点、録音図書（音声デジター含む）10校（12%）154点、マルチメディアデジター図書2校（2%）83点 （高等学校）録音図書（音声デジター含む）2校（25%）34点 （特別支援学校小学部）点字図書1校（20%）2点、拡大図書・大活字図書1校（20%）30点 ※特別支援学校中等部、特別支援学校高等部は所蔵なし 	<ul style="list-style-type: none"> 子供が興味・関心を持ち、積極的に読書に取り組むことができた。 子供によって差がある。 読み聞かせやパネルシアターなど様々な手法の「朝の会」や授業での活用を行い、毎日の繰り返しにより、読書への意欲が定着している。 特別支援学校での提供数が少なく、充実していく必要がある。（教科指導課）
○日本語を第一言語としない児童生徒や異なる文化を背景に持つ児童生徒への資料提供	
<ul style="list-style-type: none"> 小中学校において、やさしいひらがなの本や日本語以外で書かれた本を学校図書館で購入した。（教科指導課） R元年度末の学校数、およびタイトル数 <ul style="list-style-type: none"> （小学校）LLブック11校（7%）、62点、外国語の図書129校（79%）、3428点 （中学校）LLブック3校（4%）、78点、外国語の図書57校（70%）、4502点 （高等学校）外国語の図書5校（62%）、2298点 （特別支援学校小学部）外国語の図書1校（20%）、5点 ※特別支援学校中等部、特別支援学校高等部は所蔵なし 	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒のニーズを把握し、それぞれの特性に沿った図書の提供と、必要としている児童生徒にどのようなつながりがあるかが課題である。（教科指導課）
○読書支援機器の提供や利用支援（特別教育支援課）	
<ul style="list-style-type: none"> 特別支援学校では、音声教科書等、音による読書支援を行っている。 1人1台端末として、特別支援学校ではipadを使用しており、そこにUDブラウザ（教科書等教材のデジタルデータを見やすくしたり音声で読み上げたりできるアプリ）を入れて、学習や読書のサポートを実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> 現在の取組を継続して実施する。
○点字図書館、市立図書館等との連携	
<ul style="list-style-type: none"> （市立図書館での就業体験実施など、特別支援学校と市立図書館の連携） 職業体験実習（特別支援高等学校の高等部の生徒が市立図書館で就業体験を実施している） のじぎく特別支援学校高等部、いぶき明生支援学校高等部、県立西神戸高等特別支援学校高等部（西図書館）、神戸聴覚特別支援学校高校（新長田図書館）、青須須磨支援学校（垂水図書館） 図書館見学 <ul style="list-style-type: none"> 特別支援学校小学部、特別支援学級（垂水図書館、西図書館） 特別支援学級への出前おはなし会（垂水図書館） 	<ul style="list-style-type: none"> （市立図書館での就業体験実施など、特別支援学校と市立図書館の連携） 就労支援の一助 出前おはなし会を通じた読書に親しむきっかけづくり 体験により、その後の就労につながっている。 図書館に空きが出たタイミングでしか就業体験が実施できないため、機会が限られている。 学校外での図書館の利用につながっている。
○ボランティアとの協働（特別教育支援課）	
<ul style="list-style-type: none"> 特別な配慮を必要とする児童生徒に対し、学校生活の介助の一環として、ボランティアが読書サポートも行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 現在の取組を継続して実施する。

取組内容	成果・課題等																																																
大項目：4. 市立図書館における読書活動推進の取組（図書館）																																																	
中項目：◆生涯にわたって読書を楽しむ習慣を育てるための読書環境の整備																																																	
○児童書の充実																																																	
<p>子どもの興味・関心を広げる図書、学習に対応した幅広い図書の収集 <中央図書館> 幅広い児童書の収集を行い地域図書館をバックアップするほか、学校図書支援用図書、ユニバーサル資料、日本語学習図書、英語多読資料など特定の目的に応じた児童書を収集した。 児童書の年間購入冊数：約3,000冊（中央図書館） <地域図書館> 地域の子どものニーズに添った児童書を収集するとともに、定評のある図書も揃えてバランスのよい提供に努めた。YAコーナー図書の充実にも努め、中高生への読書推進を積極的に行った。</p> <p><全館> ・団体貸出に供する調べ学習資料の充実を図った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 魅力ある新刊書（人気作家の本、子どものニーズに添った本、乳幼児向けの良質な絵本など）から、学習に対応した図書、読み継がれてきた定番の児童書までバランスよく収集・提供した。 幅広い層の子どもの興味・関心に対応した。子どもの新たな世界への一歩にもつなげた。 書架の容量が決まっているため、新たな本を購入する際には除架を行うが、魅力的で新鮮でかつ子どもに必要な本が揃った書架を保つための選書眼を養う必要がある。 																																																
<p>長く読み継がれ定評のある図書の提供 ・人気があり傷みの激しい本について買い替えを進めた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 身近な大人が子供時代に読んだ本を、子供に紹介することができる。 除架と再購入の判断には、児童書に関する知識が必要である。 																																																
<p>(図書館取組) (子どもの興味関心・発達段階に応じた図書の整備) ・年齢別（低・中・高学年）おすすめ図書の展示を夏休みに行い、リストを配布 ・幼稚園巡回図書でのアンケート結果から好評だった本を展示（中央図書館） ・年齢別（低・中・高学年）おすすめ図書の展示を夏休みに行い、リスト配布。（中央図書館、地域館） ・障害等に応じた図書の整備</p> <p><中央図書館> ・ユニバーサル図書コーナー蔵書の購入（点字付き絵本、子ども向き大活字本、LLブック等）、コーナーの目立つ場所への移動。 ・学習にも使える英語絵本（グレード別の多読図書等）の買い足し ・多言語絵本の購入</p> <p><地域図書館> ・26年度 点字付き絵本等のユニバーサル図書資料の購入 ・北神分館「児童書点字コーナー」26年度設置</p>	<p>(子どもの興味関心・発達段階に応じた図書の整備) ・子供が興味・関心を持ち、積極的に読書に取り組むことができた。</p> <p>(障害等に応じた図書の整備) ・読書や日本語に困難のある子供を対象としたユニバーサルコーナーを充実させた。 ユニバーサル図書コーナーの利用状況・ニーズの把握、PRが課題である。</p>																																																
○乳幼児と保護者向けサービス（抜粋再掲）																																																	
<ul style="list-style-type: none"> 赤ちゃん絵本コーナーを全館に設置。乳幼児と保護者の絵本活用を図った。 （赤ちゃん絵本コーナーに）保護者向けに絵本を紹介する一般図書なども併せて配架した。 子育て支援センターと図書館の連携により保護者向け講座を充実 乳幼児と保護者に向けて、絵本の楽しみ方についてレクチャーを行うと共におはなし会「だっこでおはなし」を実施（於：児童館、子育て支援センター等）。 子ども家庭局「すくすく赤ちゃんセミナー」での、乳幼児の保護者に向けた読み聞かせについての啓発 読み聞かせボランティアと協働して乳幼児を対象としたおはなし会を開催 チラシ・パンフレット等の印刷物の他にホームページや子育て関連SNS等での情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> 冊数・種類の増加など（赤ちゃん絵本）コーナーの充実により、利用者の選択肢が増えた。 （赤ちゃん絵本コーナーに）関連図書を集めたことで、乳幼児保護者の利便性が高まった。 「すくすく赤ちゃんセミナー」での啓発により読書への関心が深まった。 子育てに絵本を取り入れてもらうことを保護者にもれなく啓発できた。 （乳幼児を対象としたおはなし会の開催により）大勢の幼児が一同に会して、ゆったりとした雰囲気の中で読み聞かせの会に参加することは、お話に触れるだけでなく、気持ちの面での育ちも大きい。 （乳幼児を対象としたおはなし会の開催では）感染症対策などを講じる上で、実施を見合わせる必要があることも課題である。 ホームページの活用等、乳幼児の保護者への読書活動推進についての啓発方法の検討が必要 																																																
○館内外での子どもと本をつなぐイベント実施、情報発信																																																	
<p>定例おはなし会、こどもの読書週間行事等の開催 ・おはなし会（定例、特別、出前連携等各種おはなし会）<R3：449回5,057人> ・資料展示（児童向け、YA向け合計）<R3：401回 20,693冊> ・児童向け講座、工作会他 ※大人の参加者含む<R3：72回 3,385人></p>	<ul style="list-style-type: none"> 館内、館外のさまざまな施設で、絵本の読み聞かせ等を楽しむ機会を増やした。 本や読書に関連したさまざまな行事の開催により、新たな利用者層を発掘した。また、おはなし会は毎回参加を楽しみに来館する子どもも多くなる。 																																																
<p>図書紹介リーフレット「としよ☆びか」（月刊※R4年度より隔月刊）およびブックリストの発行 ・H19年度より月刊で発行。平成30年からは小学校、幼稚園へ電子データ配信。 ・「としよ☆びか」には、図書紹介のほか、クイズや神戸の歴史・文化についてのトピックスも有り。図書館HP、神戸市電子図書館でも読める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 図書館員が選んだおすすめ図書を子どもへに向けて紹介しているが、教員や学校司書にも選書の参考にしている。 図書館としても、新刊書を読み紹介文を書くことで、児童書を知る研鑽となっている。 																																																
○小・中学生への調べ学習支援																																																	
<p>図書館での「おきしお文庫コーナー」を活用した調べ学習支援などの取組 ・各図書館の児童コーナーに設置した「おきしお文庫」（調べ学習コーナー）の充実をはかった。 学校からの団体貸出で要望の高い学習支援図書を購入。 ・本の探し方や調べ方のテーマ別ガイド「パスファインダー」を地域館全館で作成・配布した（テーマの例：宇宙、お米、バリアフリー、昔のくらし、水、地震など）。 R3年度には内容の見直しや更新、新たなテーマの追加など刷新を図った。<R3：13種> ・「おきしお文庫」の図書を使った体験型調べ学習イベント、夏休み等の自由研究支援講座の開催 <一部例> 兵庫図書館「としよこちゃんの自由研究応援コンシェルジュ」 中央図書館「自由研究応援講座“図書館で調べよう”」 複数館「親子新聞教室」</p>	<ul style="list-style-type: none"> 体験と知識の結びつきを目指し、自然体験や実験などの実体験と図書で調べることを組み合わせたイベントを開催した。 図書を活用した「調べ学習支援講座」を開催し、学習支援に努めた。 																																																
<p>情報の探し方講座やイベントの実施、調べ方ガイドの作成 ・学校司書配置校では、司書教諭と連携して学校図書館の環境整備を行うとともに、学校図書館の開館、調べ学習に使用する図書を揃え、ブックトークやパスファインダー作成などの手法を使いながら授業支援を充実させた。 ・小学校では並行読書、百科事典・図鑑を使った調べ学習はほとんどの学校で実施されている。中学校でも図書館資料の活用を67%で行っており、特に総合的学習での利用が多い。 <H30：小学校160校実施 中学校 55校> ・H30には『学校図書館を活用した授業実践集』を学校に配布し、授業活用の取組を紹介した。</p> <p>(学校司書による調べ学習など授業への支援や読書相談などの実施) 同上</p>	<ul style="list-style-type: none"> 小学校での授業活用が進んだが、国語など一部教科にとどまっている。 中学校での授業活用の取り組みがまだ少ない。 教科横断的な取り組みを含めて、授業活用はこれからの課題である。 学校司書としての支援の仕方、授業との関わり方なども今後検討の余地がある。 																																																
○YAコーナーの充実を中心とした青少年層への読書推進																																																	
<p><地域図書館YAコーナー蔵書数></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H26年度</th> <th>H30年度</th> <th>R4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>東灘</td> <td>933冊</td> <td>1,454冊</td> <td>1404冊</td> </tr> <tr> <td>灘</td> <td>1,683冊</td> <td>1,582冊</td> <td>1777冊</td> </tr> <tr> <td>三宮</td> <td>1,166冊</td> <td>1,559冊</td> <td>1390冊</td> </tr> <tr> <td>兵庫</td> <td>408冊</td> <td>871冊</td> <td>1285冊</td> </tr> <tr> <td>北</td> <td>1,088冊</td> <td>1,568冊</td> <td>1531冊</td> </tr> <tr> <td>北神</td> <td>1,108冊</td> <td>2,312冊</td> <td>2596冊</td> </tr> <tr> <td>新長田</td> <td>882冊</td> <td>1,169冊</td> <td>1181冊</td> </tr> <tr> <td>須磨</td> <td>1,023冊</td> <td>1,287冊</td> <td>1439冊</td> </tr> <tr> <td>名谷</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>730冊</td> </tr> <tr> <td>垂水</td> <td>1,016冊</td> <td>1,611冊</td> <td>1357冊</td> </tr> <tr> <td>西</td> <td>914冊</td> <td>707冊</td> <td>1728冊</td> </tr> </tbody> </table>		H26年度	H30年度	R4年度	東灘	933冊	1,454冊	1404冊	灘	1,683冊	1,582冊	1777冊	三宮	1,166冊	1,559冊	1390冊	兵庫	408冊	871冊	1285冊	北	1,088冊	1,568冊	1531冊	北神	1,108冊	2,312冊	2596冊	新長田	882冊	1,169冊	1181冊	須磨	1,023冊	1,287冊	1439冊	名谷	-	-	730冊	垂水	1,016冊	1,611冊	1357冊	西	914冊	707冊	1728冊	<ul style="list-style-type: none"> 全館で冊数が増加した。 館によってはスペース上の制約があり、冊数を増やせない事情があるが、中高生のニーズに応えるよう選書し、内容の更新を図っている。 コーナーで特集を組んで図書展示を行ったり、紹介文ポップをつけたりするなど各館でアピールに工夫。
	H26年度	H30年度	R4年度																																														
東灘	933冊	1,454冊	1404冊																																														
灘	1,683冊	1,582冊	1777冊																																														
三宮	1,166冊	1,559冊	1390冊																																														
兵庫	408冊	871冊	1285冊																																														
北	1,088冊	1,568冊	1531冊																																														
北神	1,108冊	2,312冊	2596冊																																														
新長田	882冊	1,169冊	1181冊																																														
須磨	1,023冊	1,287冊	1439冊																																														
名谷	-	-	730冊																																														
垂水	1,016冊	1,611冊	1357冊																																														
西	914冊	707冊	1728冊																																														

取組内容	成果・課題等
<p>中高生同士が本を通して交流できるイベントの開催 (図書館YAコーナーとユースステーションなど青少年関連施設との連携強化) ・ユースステーションの学習室に、YA向け図書館だよりやブックリストなどの図書情報等を掲示。 (新長田図書館) ・児童館にYA向け図書だよりを掲示、図書展示を実施(北図書館) ・中高生向け読書会「集まれ本好き・本の虫」の開催(北図書館) ※地域の中学校との連携について ・中学校図書委員によるYAおすすめ本のPOP掲示・配信(地域図書館) ・中学生と絵本を楽しむ会(中学生によるおはなし会)(垂水図書館)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中高生の集うスペースに図書情報を掲示することで、読書のきっかけ、図書館来館を促した。 ・新たな連携先の開拓と連携内容の充実が課題である。 ・ユースステーション利用者への、読書のきっかけづくりとなった。
<p>ホームページやSNS上での情報発信 ・「こどものページ」の充実 ・Facebookでの開催済みイベントの紹介発信(FacebookはR3.9で終了) ・Twitterでイベントのお知らせと、開催後の紹介発信(R4年度～)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの読書に関わる大人に向けてのページを作成したことで、教員・学校司書、ボランティア、保護者に情報を活用してもらっている。 ・子どもが興味をもってみることでできるようなコンテンツの充実を図るとともに、目的の情報をもっと探しやすくする必要がある。
中項目：◆学校園との連携	
○授業支援のための資料提供	
<p>総合学習用図書セットの貸出…内容別にセットされた図書を小学校へ巡回貸出する。 R3年度：15テーマ、38セット<R3：178回 16,561冊> →セットごとの利用状況に応じて、セット数の追加・見直しと内容の更新、新規テーマ追加・見直しを行った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多数の学校に公平に利用してもらうため、平成29年度に上限冊数を40冊にするなどマニュアルを改訂。 ・まとまった冊数の図書貸出により、授業での図書活用に貢献できている。 ・同時期に特定テーマやセットに利用申込が集中することへの対応は、引き続き課題である。
<p>「テーマ本集め」による団体貸出(学習に関連する個別テーマでの図書提供) ・テーマ本集め…学習に関連した特定のテーマの図書を、依頼により図書館が見つくろい集め、小中学校へ団体貸出する。<R3：348回 10,227冊> →申込状況・学習単元により、要望の多いテーマの資料の充実を図り、貸出に備えた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ本集め：平成26年から27年度に大幅増。学校司書の配置事業開始にともない、学校での図書利用が活発になったことが理由と考えられる。
○幼稚園への絵本セット巡回貸出	
<p>・幼稚園巡回図書貸出 H27年度より、中央図書館から幼稚園へ絵本セットの巡回貸出を始めた。巡回用絵本を年間約1,000冊 図書館用とは別に購入している(28年度までは「神戸市置塩こども育成基金」を利用)。 <R3：市立28園 私立14園(@40冊×3回)、R4：市立29園 私立12園(@40冊×3回)></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の取組を継続して実施する。
○教育委員会との連携による学校図書館運営の支援	
<p>司書教諭および学校司書に対する研修、情報提供 (学校司書への研修やフォローアップの実施) ・学校司書に対して、新規採用研修、1年次研修、全体研修、ブロック研修、経験者研修を行った。 <H30：新規採用研修7回、1年次研修6回、全体研修3回、経験者研修2回、ブロック別研修2回> ・学校図書館コーディネーターが随時巡回訪問を実施し、フォローアップを行った。 <H30訪問回数：小学校82回、中学校46回> ・市立図書館の司書によるレファレンスや選書などの学校司書研修を実施した。 (R3：新規採用研修、ブロック研修(オンライン)4回) (小中学校での教員への学校図書館の役割や活用、活性化についての研修の実施) ・『学校図書館活用神戸モデル』を小学校版H29、中学校版H30発行し、学校図書館活用の指針を示した。 ・『神戸モデル』に沿った研修や説明会を司書教諭・図書館担当者、学校司書対象に実施した。(H29・30) (神小研図書館部、神中研図書館部での、研究や研修の実施) ・神小研は、市立図書館での選定の会や授業研究、講師を招いた講演会等を実施し、情報交換と授業での図書館・資料活用についての研究を行った。 ・神中研では、運営利用、課題図書読書指導、地区別などの多彩な研究会の取組を通年で実施するとともに「係り生徒のつどい」を市立図書館で実施した。 (幼稚園や小学校での、職員への「子ども読書の日」の周知) ・子ども読書の日を学校図書館に掲示するなど周知を図った。</p>	<p>(学校司書への研修やフォローアップの実施) ・学校司書のスキルアップ、業務支援を行った。 ・学校司書のスキルやニーズが多様化しており、研修内容の再考が必要。 ・配置校が増えるとともに、個々の司書への課題対応も複雑になり、きめ細かなフォローアップが必要だが難しくなっている。</p> <p>(小中学校での教員への学校図書館の役割や活用、活性化についての研修の実施) ・学校図書館担当者、学校司書、司書教諭との合同研修など、教員への研修のさらなる充実が必要である。</p> <p>(神小研図書館部、神中研図書館部での、研究や研修の実施) ・学校図書館の活用、活性化に神小研、神中研は積極的に取り組んだ。研修会の実施などを行っている。(R2から教育実践研修として制度変更)</p> <p>(幼稚園や小学校での、職員への「子ども読書の日」の周知) ・「子ども読書の日」自体は定着している。ただ4月は学年はじめてでもあり、積極的な取り組みは難しい状況もある。</p>
○学校園への出前授業(ブックトーク、調べ学習講座等)	
<p>(市立図書館の職員による出前授業の実施) ・小学校でのブックトーク(灘図書館・北神図書館) ・本へのとびら授業(三宮図書館、兵庫図書館、北図書館) ・小学校への出前授業「図書館見学」(東灘図書館、垂水図書館、西図書館) ・県立夢野台高校での出前授業「小学校実習に向けた絵本の読み聞かせ講座」(兵庫図書館) ・県立須磨友が丘高校での出前授業「こども文化」(須磨図書館) ・伊川谷北高校での出前授業「絵本読み聞かせ講座」(垂水図書館)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響で図書館見学は受けられない場合もあったが、職員が学校へ出向いて図書館見学の代わりになるような内容の出前授業を行い、喜ばれた。 ・子供たちに図書館の使い方を伝えることで、図書館への興味を引き出し、利用促進につながれた。 ・本の紹介により、読書へ親しむきっかけ作りとなった。 ・学校へ出向くことで、教員との関係性を深め情報共有を図ることができた。

取組内容	成果・課題等
中項目：◆子どもの読書活動に関わるボランティア等との連携および支援	
○ボランティア活動に役立つ読み聞かせ講座等の実施、新刊本の情報提供	
<p>(読み聞かせボランティア向け入門講座の実施および、内容の検討)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせびと養成講座(基礎コース・応用コース 1回:5日間) <H29-R 1:各年6回、R2・3:感染症対策のため中止、R4:5回> <p>(学校図書館整備・運営、読み聞かせなど学校で活動するボランティアへの研修の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアに限らず、広く市民に学校図書館についての理解を深めてもらうため「講座学校図書館入門」をH28から開催 <H28-H30 各年度50人が受講> <p>(図書館での読み聞かせボランティアへの専門的なスキルアップ講座の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中央図書館「ボランティアスキルアップ講座」 内容:ブックトーク講座、おはなし会プログラム作り方講座、わらべうた講座、児童書近刊の紹介、ボランティア交流会等<R3:2回> <p>(「読み聞かせびと養成講座」修了生への活動促進につながる講座内容の検討)</p> <p>上記項目101「ボランティアスキルアップ講座」がそれにあたる。</p> <p>(子供の読書活動に関わるボランティアの活動状況調査の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「グループ紹介リスト」について 市内の読み聞かせボランティアグループのリスト。読み聞かせびと養成講座・応用コース修了生に配布している。修了後に活動を始めるにあたって、他グループの活動を見学する際などに役立ててもらうため情報提供する。 <p>(図書館や教育委員会ホームページでのボランティアへの情報提供)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館ホームページ「子供読書ボランティアのページ」 「ボランティアスキルアップ講座」の情報、活動入門リーフレット「ボランティア活動を始めには」、団体貸出マニュアル、大型絵本などのリスト等を掲載。 <p>(市立図書館でのボランティアを対象にした近刊児童書書の紹介)</p> <p>上記項目101「ボランティアスキルアップ講座」のひとつ「児童書近刊書の紹介」を30年度より開始(毎年実施)</p> <p>(図書館や教育委員会ホームページでのボランティアへの情報提供)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館ホームページ「子供読書ボランティアのページ」 「ボランティアスキルアップ講座」の情報、市立図書館「子供等の読書推進ボランティア」受け入れ要綱、活動入門リーフレット「ボランティア活動を始めには」、団体貸出マニュアル等を掲載。 	<p>(読み聞かせボランティア向け入門講座の実施および、内容の検討)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせのボランティアを希望する人へ学びの機会提供 ・講座修了生が図書館や児童館、学校園で活発な活動を行い、本の世界への扉を子どもたちに開いている。 <p>(学校図書館整備・運営、読み聞かせなど学校で活動するボランティアへの研修の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講座修了生から学校司書として採用される事例もあり、学校図書館を支える人材の育成につながっている。 <p>(図書館での読み聞かせボランティアへの専門的なスキルアップ講座の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせびと養成講座の修了生やボランティア活動を現在行っている人へのスキルアップ講座として、さらに学び続けたい人への機会提供。 ・ボランティア同士の交流・情報交換の場となっている。 ・児童書近刊の情報提供 <p>(「読み聞かせびと養成講座」修了生への活動促進につながる講座内容の検討)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「おはなし会プログラム作り方講座」などが、読み聞かせ等のボランティア活動を行う際に役立っている。 <p>(子供の読書活動に関わるボランティアの活動状況調査の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内の読み聞かせボランティアグループの活動状況の把握。 ・ボランティア活動を始めたい人および各種施設等で読み聞かせをしてくれるグループをさがしている人と活動中のグループをつなげ、ボランティア活動を促進した。 <p>(図書館や教育委員会ホームページでのボランティアへの情報提供)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせ等のボランティアを始めたい人や活動中のグループに役立つような情報を掲載した。 <p>(市立図書館でのボランティアを対象にした近刊児童書書の紹介)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近刊児童書について知ることのできる貴重な機会、絵本の選書に役立つなど、ボランティアに好評をいただいている。 ・図書館司書にとっても、新刊書の読みこみとブックトークのスキルアップという研鑽になっている。
○ボランティア交流会の開催	
<p>(NPOや事業者との交流会の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行事共催のための話し合い、打合せを行った。 ・定期的に交流会を実施している。 	連携に向けて話し合い交流を深めた。
○ボランティア団体との連携企画実施	
<p>(公民館での登録グループとして活動する読み聞かせグループ支援や協働事業の実施)</p> <p>登録グループによる読み聞かせ事業を実施している</p> <p>(市立図書館でのボランティアの活動促進)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館でのおはなし会の開催を増やして、ボランティアの活動の場を提供した。図書館ボランティア登録の要件として、「読み聞かせびと養成講座」修了もしくは同等のスキルということを要綱に入れている。 <市立図書館 定例おはなし会実施回数(職員実施も含む)> H26:月47回→H30:月54回 R4年度は中央図書館、三宮図書館、名谷図書館の3館でR5年度からの活動グループの公募を実施。 <p>(NPOや事業者との協働事業の検討)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NPOや社会活動団体、事業者と図書館が連携したイベント・おはなし会等の実施(図書館) <R3年度の一部例> 「こどもワクワク食堂での読み聞かせ」こどもワクワク食堂(兵庫図書館) 「兵庫駅南公園こどもフェスタ おはなし会」こどもフェスタ実行委員会連携(兵庫図書館) 「映画になった世界の本 本になった世界の映画」神戸定住外国人支援センター連携(新長田図書館) <p>(子供の読書活動に関連するNPOや事業者についての情報の収集)</p> <p>地域のさまざまな団体との連携の機会を図った。(図書館)</p>	<p>(公民館での登録グループとして活動する読み聞かせグループ支援や協働事業の実施)(公民館)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館や児童館等にて、登録グループによる読み聞かせ事業を実施 <p>(市立図書館でのボランティアの活動促進)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講座で学んだ人たちに図書館での活動機会を提供し、質の高い活動をしてもらうことで、子どもたちと本をつなぐ機会を増やした。(図書館) <p>(NPOや事業者との協働事業の検討)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のさまざまな団体との連携により、その館ならではの特色ある取組ができています。(図書館) ・図書館外での実施も多く、地域の中で図書館や本に親しみをもってもらえた。(図書館) <p>(子供の読書活動に関連するNPOや事業者についての情報の収集)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のなかの図書館ということ意識して、各種団体との連携の機会をとらえた。(図書館)
中項目：◆特別な配慮が必要な子供たちへの支援	
○日本語を第一言語としない子ども、特別な支援を必要とする子どもに向けた図書の充実	
<p>(市立図書館でのNPOと連携した日本語を第一言語としない子供への読書会の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神戸定住外国人支援センターと共催で日本語の読み書きが苦手な在日外国人の小学生を対象とした読書会、および小学校へ出向く「出張読書の会」を実施(新長田図書館) <p>(市立図書館での子ども向け日本語教育資料の収集)</p> <ul style="list-style-type: none"> <中央図書館> ・読み継がれてきた名作絵本を中心に、英語・中国語・韓国語の図書の収集を強化(R4年度) ・大活字本やLLブック等のユニバーサル図書を継続して収集している。 ・困難を抱える人について書かれた本を収集し、ユニバーサルコーナーに配架。 ・ユニバーサル図書コーナーを目立つ場所に変更。 ・電子図書館で、多言語の絵本や読み物を購入した。 ・多言語による利用案内リーフレットを作成した。 <p>(障害等に応じた図書の整備)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサル図書コーナー蔵書の購入(点字付き絵本、子ども向き大活字本、LLブック等)。コーナーの目立つ場所への配架(中央図書館) ・学習にも使える英語絵本(グレード別の多読図書等)の買い足し ・多言語絵本の購入 	<p>(市立図書館でのNPOと連携した日本語を第一言語としない子供への読書会の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語を第一言語としない子どもへの日本語支援、本に親しむ機会の提供 ・他の団体(言語)との連携模索 <ul style="list-style-type: none"> ・図書館見学に来た外国にルーツがある子供が自分の国の言語の本があると喜んでいて、神戸には外国にルーツのある子供も多いため、今後も積極的に収集していきたい。 ・ユニバーサル図書を収集することにより、特別な支援を必要とする子供たちの読書活動を促進する土台ができてきた。 ・ユニバーサルコーナーの利用状況・ニーズの把握、PRが課題である。 ・電子書籍の導入により、日本語を第一言語としない子供だけでなく、外国語に興味のある子供にも利用してもらえる。 ・電子図書館のさらなるPRが必要。
中項目：◆児童サービス担当者の人材育成	
○自主研修会の実施、館外研修会等への参加	
<p>(市立図書館での子どもサービス担当職員への研修の実施)</p> <p>外部講師による研修や自主研修研修会を年間約3回実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブックトーク研修(読書推進、科学読み物、授業支援等) ・文章術講座 ・手あそび、わらべうた講座 ・アニメーション研修 ・調べ学習講座 など <p>「ボランティアスキルアップ講座」「読み聞かせびと養成講座」「ストーリーテリング勉強会」への参加</p> <p>(市立図書館での各館職員による「子どもサービス委員」の任命)</p> <p>「子どもサービス委員」は市立図書館12館の児童サービス担当職員からなる組織。中央図書館は、市立図書館の方針を示し地域館を統括する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもサービスの方向性検討 ・子どもサービス委員会の企画・運営 ・情報交換 ・共同の取組(「としよ☆びか」「えほんの小箱」発行等) ・研修会の実施 	<p>(市立図書館での子どもサービス担当職員への研修の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもと本をつなげる手法について継続して学ぶことでスキルアップにつながった。 <p>(市立図書館での各館職員による「子どもサービス委員」の任命)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童サービスの充実を目指し、協力して活動している。 ・情報交換により他館の優れた事例が還元され、良い取組に結びついた。
中項目：◆ICT社会における子どもたちの読書、情報活用の支援	
○「神戸市電子図書館」(令和3年1月稼働)の充実と活用(中央図書館)	
現在の所蔵タイトル数 約4,000タイトル(青空文庫除く)	現在所蔵が少ないことにより、利用が伸びていないように見受けられるため、来年度以降も購入点数を増やしていき、利用を促したい。
○紙の本とデジタル情報の相互利用による読書推進	
<ul style="list-style-type: none"> ・電子書籍を用いたイベント実施の検討 ・電子書籍の児童書数も増やすことを検討 	ほとんどのコンテンツに貸出回数や利用年数の制限があり、継続的に維持するには買い直しが必要であることが課題。

大項目：5. こども本の森 神戸

「資料8」にて説明



施設概要及びコンセプト

1. 施設概要

- ①建設場所：神戸市中央区加納町6丁目1-1（東遊園地南エリア）
- ②構造：鉄筋コンクリート造 地上2階
- ③建築面積：約650㎡ 延床面積：約570㎡
- ④その他：東遊園地管理棟2階部分と接続し、一体的な運用を図る。（多目的室約75㎡）
- ⑤蔵書数：約25,000冊（開館当初は18,000冊程度を配架）



2. 施設コンセプト（5つの柱）

命の大切さと震災の教訓の継承

神戸の歴史・文化との出会い

自由な空間と体験で育む創造力

公園の自然の中から生まれる好奇心

世代間とウォーターフロントへのつながり



※図書館法上の図書館ではない文化施設とし、こども達が良質で多様な本に出会い、豊かな感性と創造力を育む施設とする。

経過及びスケジュール

- R1 9月 安藤忠雄氏からの寄附の申し出にかかる市長との共同会見（9/13）
- R2 6月 ●議会 寄付受け議案の上程・議決
9月 施設名称（こども本の森 神戸）の決定
11月 本体工事着手（11/12起工式）
12月 ●議会 公の施設としての設置条例議案の上程・議決
- R3 12月 工事完了（12/15竣工）
- R4 1月 開館日及び名誉館長の決定及び発表（1/28市長会見）
2月 名誉館長委嘱式（2/10）〔竹下景子氏〕
3月 供用開始（3/25）

運営概要

指定管理者による運営

■ 指定管理者：TRC&長谷工 meet BACH 共同企業体

（株）図書館流通センター（TRC）、（株）長谷工コミュニティ、（有）BACH

〔指定管理期間〕 令和4年4月1日～令和9年3月31日（5年間）

〔指定管理料年間〕 43,999千円（うち10,000千円は文化振興基金（寄付金）を充当）

■ 運営状況

開館時間：午前9時30分～午後5時まで

休館日：月曜（祝日の場合は開館、翌平日が休館）



予約制
の導入

予約方式：抽選方式＋先着予約（抽選予約確定後、キャンセル等で空きが出た場合）
※申し込み人数枠：1組5名まで、申し込み数制限：1日あたり1枠まで
予約人数：1回あたり最大120人×4回転 90分制 480人/日
（①9:30～11:00 ②11:30～13:00 ③13:30～15:00 ④15:30～17:00）

運営概要

■予約及び来館状況（令和4年度）

	来館者数(人)	来館者/定員(%)	予約申込者数(人)	館外持出利用(冊)
4月	6,568	63.3	16,924	540
5月	5,970	57.4	30,233	527
6月	5,074	48.9	12,913	261
7月	7,270	56.3	11,382	255
8月	8,688	70.3	13,908	184
9月	6,069	48.8	9,675	151
10月	6,459	52.0	7,320	284
11月	5,995	48.2	6,193	237
12月	4,875	42.3	5,921	86
1月	5,935	51.7	5,765	64

※9月後半から予約が少ない金曜日の枠（15:30～17:00）を予約なしに変更

5

運営概要

■学校園・団体等の受入（令和4年6月より開始）

- ①見学：37校（942名） ②インターンシップ：1校（2名）
 ③図書館インタビュー：2校（2名） ④トライやるウィーク：1校（4名）

■イベント開催〔27イベント（令和5年1月まで実施分）〕

<主なイベント>



野依良治先生によるおはなし



第1回ABCアナウンサーによる「こども読み聞かせ会」



第2回ABCアナウンサーによる「こども読み聞かせ会」



本の森でバードコールを作ろう

6

運営概要



tupera tupera 絵本ライブ



本の森からバスでGOGO



朗読音楽会「ロバのおうじ」



ハロウィンウィークをたのしもう！



親子で学ぶ和食のマナー



《出張！体験考古学講座》
「土器をつくろう！」

寄附金、寄贈図書について

■ 寄附金募集状況（令和5年1月末時点）

寄付額合計 2億2,082万8,889円

（内訳）

- | | |
|-------------|-----------------------|
| ①個人(ふるさと納税) | 107,885,037円 (2,412名) |
| ②企業 | 109,064,196円 (78社) |
| ③任意グループ | 3,879,656円 (56グループ) |

〔寄付の特典〕個人、グループは3万円以上、企業は30万円以上で施設の銘板に名称掲載

■ 本の寄贈募集について

募集期間：令和3年7月6日(火)～8月31日(火)

募集結果：20,992冊（うち使用配架数：約5,000冊）



今後の展望について

未永く、市民の方を始めとして全国の皆さまに愛される施設を目指して、将来的にわたって、「こどもたちの豊かな感性と創造力を育む場」を提供する。

■ 安定した収入の確保

ふるさと納税（個人、企業）の継続
指定管理者によるサポーター制度の導入



■ 魅力的なイベントの継続実施

「こども本の森神戸」でイベントを開催するなど、
応援してくれる協賛会員（企業・団体）を募集



■ 配架本の充実

18,000冊 ⇒ 25,000冊
※毎年約500冊ずつ購入



■ 来館者の増加

予約制解消による自由来館（周知PR）
学校園、各種団体の積極的な受け入れ



「こうべっ子読書活動推進プログラムに基づく取組検証」について 委員事前質問および御意見

①今年度からプラザがなくなっているが、同様の役割を担う地域子育て相談ルーム（拠点保育所？）との連携を行っているのか？

（回答：こども家庭局幼保振興課）

地域子育て支援事業としての図書館連携は、今年度は2カ所のみ。

- ・**兵庫区**: 昨年までの「おはなしゆりかご」を「にこにこひろば」と名前を変えて、兵庫図書館・兵庫区保育所・地域子育て支援担当との共催で、今年度開催した。
- ・**長田区**: 図書館事業として「ほのぼのひろば」は開催しており、プラザ廃止に伴い、これまで共催だったところを「協力」という形で参加した。

②地域支援の拠点となる「おやこふらっとひろば」との連携事業は行っているのか？

（回答：こども青少年課）

図書館と「おやこふらっとひろば」との連携状況は、区によって異なるが、図書館司書の方にひろばに来ていただき、絵本の読み聞かせなどのプログラムを実施しているところもある。

また、中央区の「おやこふらっとひろば」では、来所者に『こども本の森』を案内し、本に触れ合う日を設けるなど、『こども本の森』と連携した事業を実施している。

③SNS 発信として、若い世代の利用が多いインスタ（神戸ママフレ部）との協働の可能性は？
特に電子図書はタブレット使用の多い世代には効果的だと思う。

（回答：中央図書館）

「ママフレ」のHPでは、「親子で使える施設・スペース」より「市立図書館のご案内」「行事案内」に飛べるリンクを掲載しており、今後はインスタ「神戸ママフレ」から図書館のページへアクセスできるよう、検討していきたい。

電子書籍については、読み放題パックを購入しており、PRを広げていきたいと考えている。

④「やったあ、読書の日」は面白い取り組み。長期休暇や連休などにも、感想文なし（フィードバックの方法の工夫は必要）で取り入れたらいいのではないかと思う。

（回答：教科指導課）

「やったあ！読書の日」のように「読書」を宿題に出す小学校はかなりあるが、数は把握していない。ネーミングは学校により様々となっている。

長期休業前に学校図書館での貸出冊数を増やす学校もあり、長期休業中等にも「普段読まないような本を読みましょう」と読書を推奨してはいるが、それだけに終わっている場合が多い。「また今度もやってみよう」と思えるよう児童生徒の取組の成果をどのように認定するかや、どんな本が読まれたかを、他の児童生徒にも伝えたりする方法を検討する必要がある。「やったあ！読書の日」についても同様の課題があるため、各校や児童の状況に応じたフィードバックのよい方法を検討し提案していきたいと考えている。

小学校では現在、反復・復習等を中心とする宿題から、子供たち自身が何を学習するかを決めて取り組むことができるよう、宿題の内容や出し方の見直しを進めている。その中で、「じぶん学習」という児童自身が何を学習するかを決めて取り組むという宿題を出すことがあり、そこで「読書」に取り組む児童もいる。（この宿題では、ノートに取り組んだことを書き込むことになっている。）

⑤保育所や幼稚園との連携は公立のみのようだが、私立との連携はしていないのか？（公立の割合が少ない）私立でも単独で取り組んでいる園もあるとは思いますが、アプローチをした方が良いでしょう。

（回答：中央図書館）

現在、図書巡回事業を 29 の市立幼稚園と 12 の私立幼稚園で実施しており、定例園長会にて募集案内を行っている。